

川越市文化財保護年報

平成 28 年度

川 越 市 教 育 委 員 会
文 化 財 保 護 課

序

文化財とは、「我が国の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産」のことです。そして、それぞれの土地における歴史・伝統・文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化を創り出す礎となる貴重なものでもあります。

川越市には、この文化財が数多く存在し、文化財保護法に定義された文化財のうち文化的景観・無形文化財を除く、有形文化財・民俗文化財・記念物・伝統的建造物群が存在しております。また、埋蔵文化財も広く存在しています。

すなわち、歴史上・芸術上・学術上において価値の高い文化財がその指定の有無にかかわらず存在しているといえます。これらの貴重な文化財を後世に引き継いでいくために、川越市教育委員会では文化財の保存と活用を推進し、各種の事業に取り組んでいます。

平成 28 年度は、11 月 30 日（日本時間 12 月 1 日）に「川越氷川祭の山車行事」を含む「山・鉦・屋台行事」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されるという、特筆すべき年度でした。

これらの取り組みをまとめたものが当年報となります。この年報を多くの皆様にご活用いただき、文化財保護意識高揚の一助になれば幸いです。

平成 29 年 10 月

川越市教育委員会教育総務部
文化財保護課

目 次

1 文化財保護課の目標と決算	
1-1 目標	1
1-2 平成28年度決算及び前年度比較	1
2 教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務	
3 附属機関	
3-1 文化財保護審議会	2
3-2 川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会	3
3-3 河越館跡整備検討委員会	4
3-4 山王塚古墳調査検討委員会	4
3-5 伝統的建造物群保存地区保存審議会	5
4 河越館跡史跡整備事業	
4-1 史跡の概要	6
4-2 保存整備の経過	7
4-3 史跡整備に係る主な事業経過	8
4-4 公有化の推移	8
4-5 河越館跡活用事業	8
(1) 河越流鏑馬	8
(2) 行為許可	9
5 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業	
5-1 川越氷川祭の山車行事	10
5-2 保存修理事業	11
(1) 川越氷川祭の山車 六軒町の山車〈三番叟〉人形衣装等保存修理	11
5-3 ユネスコ無形文化遺産登録	12
6 指定文化財の管理	
6-1 指定文化財保存事業（補助事業）	14
(1) 有形文化財・建造物の防災設備保守点検	14
(2) 史跡・天然記念物の保存	14
(3) 有形文化財の修理	14
(4) 有形民俗文化財の修理	15
6-2 文化財保存団体への助成と活動状況	15
(1) 無形民俗文化財の後継者育成・保存事業	15
(2) 文化財関係団体への助成	15
6-3 主な保存事業	16
(1) 三芳野神社社殿保存修理	16
(2) 元町2丁目六塚稲荷神社本殿保存修理	18
(3) 松平大和守家廟所保存整備	19
(4) 砂久保稲荷神社本殿保存修理	20
7 文化財調査	
7-1 古文書調査	21

8 文化財の活用	
8-1 資料の貸出	21
(1) 常設展等に貸与した資料	21
(2) 特別展・企画展等に貸与した資料	21
8-2 市指定文化財の活用状況	22
(1) 時の鐘	22
(2) 永島家住宅（旧武家屋敷）	22
9 埋蔵文化財	
9-1 埋蔵文化財調査一覧	24
(1) 発掘調査件数の推移	24
(2) 発掘調査一覧	24
(3) 試掘調査一覧	25
9-2 試掘調査	27
9-3 教育委員会の発掘調査	51
(1) 霞ヶ関遺跡（第23次調査）	51
(2) 喜多院境内遺跡（第4次調査）	
－市指定史跡松平大和守家廟所保存整備に伴う発掘調査－	52
(3) 登野山遺跡（第2次調査）	54
(4) 山王塚古墳（第3次調査）	56
(5) 豊後山遺跡（第2次調査）	62
10 伝統的建造物群保存地区保存整備事業	
10-1 伝統的建造物群保存地区制度	64
10-2 地区概要	64
10-3 地区の特性	65
10-4 平成28年度の主な事業の概要	65
10-5 現状変更行為件数	65
10-6 保存事業	66
10-7 保存活動事業	68
10-8 伝統的建造物の特定状況	68
10-9 時の鐘耐震化事業	69
10-10 蔵造り資料館耐震化事業	71
11 普及・啓発事業	
11-1 職員の派遣	72
11-2 刊行物	73
11-3 防火訓練	74
11-4 遺跡発表会2016	75
11-5 山王塚古墳発掘調査見学会	76
12 川越市の文化財数	

1 文化財保護課の目標と決算

1-1 目標

川越市は、埼玉県を代表する文化財のまちである。これは、各地域の人々が伝承されてきた歴史的建造物や伝統芸能などを大切に守り、伝えてきた結果であり、今後もこれらの貴重な文化財を将来の世代に引き継いでいかなければならない。

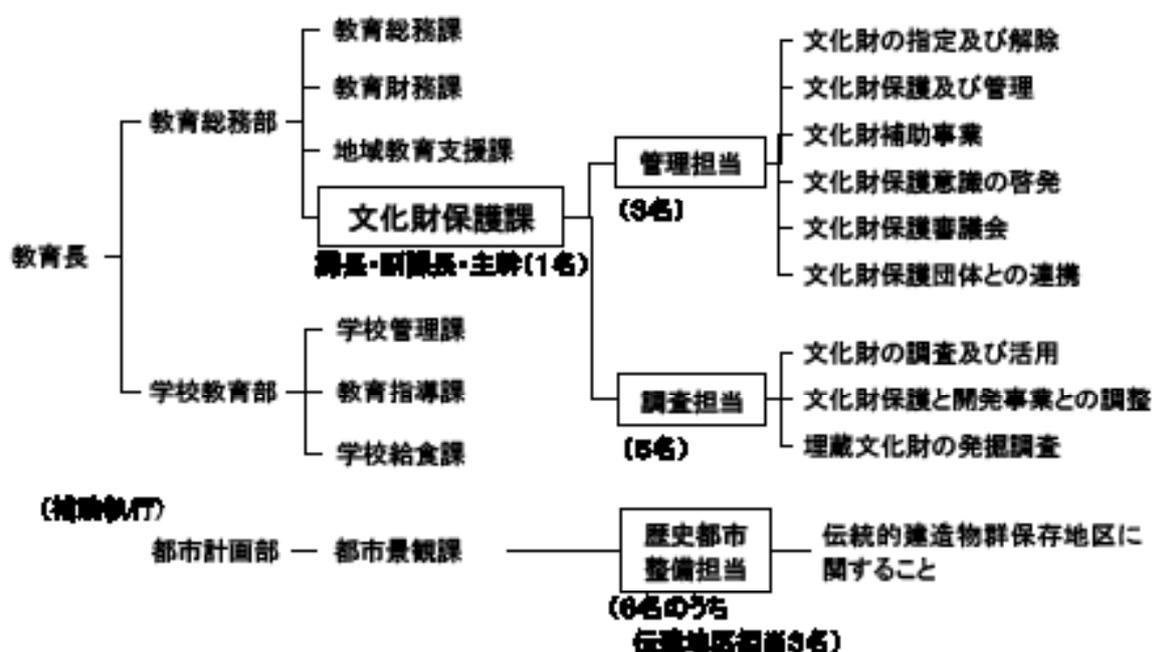
このため、つぎのような目標のもとで、文化財の保存と活用を推進していく。

- 文化財の諸調査を実施し、理解を深めるとともに、その保存と活用を図る。
- 指定文化財の維持、管理の充実とその活用を図る。
- 河越館跡整備及び活用の推進を図る。
- 文化財保護意識の啓発に努める。
- 文化財保護団体等との連携を図り、保護活動の推進に努める。

1-2 平成 28 年度決算及び前年度比較

区 分	27 年度決算	28 年度決算	比較増減額	増減率	
一般会計	104,016,573,674	108,510,901,967	4,494,328,293	4.3%	
教育費	13,176,858,424	12,232,221,969	△ 944,636,455	△ 7.1%	
文化財保護費	98,842,690	150,269,649	51,426,959	52.0%	
事業別	文化財の維持・管理	65,555,885	93,127,738	27,571,853	42.1%
	文化財の活用	22,418,010	40,969,887	18,551,877	82.7%
	河越館跡整備	10,868,795	16,172,024	5,303,229	48.9%
時の鐘耐震化事業費	25,094,120	76,371,880	51,277,760	204.3%	

2 教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務



3 附属機関

文化財保護審議会のほか、個々の文化財について検討する委員会を現在3つ設置している。また、都市景観課で伝統的建造物群保存地区保存審議会を設置している。

3-1 文化財保護審議会

川越市文化財保護審議会は、川越市文化財保護条例第4条に基づき設置されており、平成28年度は11名の委員を委嘱している。委員の役割分担は、考古・歴史・民俗・建築・植物・文学などにわかれており、川越市の指定文化財に関する調査と、指定文化財の維持・管理についての助言等を行う。

委員名簿（任期 平成27年4月1日～平成29年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	山野 清二郎	委員	羽生 修二
副会長	松尾 鉄城	〃	馬場 弘
委員	大久根 茂	〃	林 宏一
〃	小久保 徹	〃	牧野 彰吾
〃	酒井 紀美	〃	水上 嘉代子
〃	佐藤 啓子		

開催状況

第1回	期日	平成28年5月25日（水）
	場所	教育委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本遺産について ・ 永島家住宅（旧武家屋敷）の寄付について ・ 山王塚古墳調査について ・ 小林家所蔵文書の調査について ・ 「川越市の文化財」の改訂について 等
第2回	期日	平成28年8月26日（金）
	場所	教育委員会室
	出席者	7名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山王塚古墳調査について ・ 全史協関東地区協議会について ・ 時の鐘耐震化工事の概要等について ・ 「川越市の文化財」の改訂について 等
第3回	期日	平成28年11月21日（月）
	場所	国史跡武蔵府中熊野神社古墳（府中市）、東山道武蔵路（国分寺市）
	出席者	10名
	主な議題	文化財保護行政視察

第4回	期日	平成29年2月6日(月)
	場所	教育委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 旧山崎家別邸の植栽等について 時の鐘耐震化工事の完成について 新指定文化財の候補について 等

3-2 川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会

川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会は、川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会条例に基づき、川越氷川祭の山車行事に係る山車等の修理等に関して検討を行うため設置されている。平成28年度は、委員として民俗、建築、人形、繊維・染織を専門とする学識経験者と保護団体代表の5名を委嘱している。

委員名簿（任期 平成27年4月1日～平成29年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	大久根 茂	委員	水上 嘉代子
副委員長	藤澤 彰	〃	笠原 啓一
委員	是澤 博昭		

開催状況

第1回	期日	平成28年5月18日(水)
	場所	博物館会議室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度修理事業報告(元町一丁目〈牛若丸〉車輪車軸、大手町〈鉦女〉人形袴帯、大手町〈鉦女〉山車轆) 平成28年度修理事業進捗報告(六軒町〈三番叟〉人形衣装等) 平成29年度修理事業予定について(元町一丁目〈牛若丸〉上高欄) 平成30年度以降の山車修理事業計画について
第2回	期日	平成28年11月9日(水)
	場所	博物館会議室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度修理事業進捗報告(六軒町〈三番叟〉人形衣装等) 平成29年度修理事業予定について(元町一丁目〈牛若丸〉上高欄) 平成30年度山車修理事業予定について(喜多町〈秀郷〉車軸等、松江町一丁目〈龍神〉山車本体) 平成31年度以降の山車修理に係る調査報告について

3-3 河越館跡整備検討委員会

河越館跡整備検討委員会は、川越市河越館跡整備検討委員会条例に基づき河越館跡の整備に関して検討を行うため設置されている。平成28年度は中世史、考古学、造園学、景観工学等を専門とする10名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 平成28年11月1日～平成30年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	内田 祥士	委員	小久保 徹
副委員長	梅沢 太久夫	〃	浅野 晴樹
委員	小野 正敏	〃	落合 義明
〃	鈴木 誠	〃	齋藤 慎一
〃	田代 脩	〃	橋口 定志

開催状況

平成28年度は会議開催なし

3-4 山王塚古墳調査検討委員会

川越市山王塚古墳調査検討委員会は、川越市山王塚古墳調査検討委員会条例に基づき、山王塚古墳の調査及び研究に関して考古学・古代史などを専門とする学識経験者により検討するため設置された。平成28年度は考古学、古代史を専門とする5名の委員によって検討を行った。

委員名簿（任期 平成26年11月1日～平成28年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	広瀬 和雄	委員	須田 勉
副会長	塩野 博	〃	宮瀧 交二
委員	池上 悟	〃	小久保 徹

（任期 平成28年11月1日～平成30年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	広瀬 和雄	委員	宮瀧 交二
副会長	須田 勉	〃	小久保 徹
委員	池上 悟		

開催状況

第1回	期日	平成28年8月25日（水）
	場所	教育委員会室
	出席者	4名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の発掘調査の成果について 平成28年度の発掘調査について 主体部の調査について 総括報告書について

第2回	期日	平成29年3月30日(木)
	場所	博物館会議室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の発掘調査について 山王塚古墳の周溝範囲について 平成29年度の調査計画について 今後のスケジュールについて

3-5 伝統的建造物群保存地区保存審議会

川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会は、川越市伝統的建造物群保存地区保存条例第10条に基づき設置されており、市長及び教育委員会の諮問に応じ、保存地区の保存等に関する重要事項について調査及び審議をし、並びにこれらの事項について市長及び教育委員会に建議することを目的としている。平成28年度は12名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 平成28年8月30日～平成30年8月29日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	福川 裕一	委員	村田 章人
副会長	可児 一男	〃	須賀 憲
委員	溝尾 良隆	〃	石村 晃龍
〃	野澤 千絵	〃	隈倉 雄二郎
〃	佐藤 由美子	〃	栗原 智恵三
〃	林 秀平	〃	竹澤 穰治

開催状況

第1回	期日	平成28年11月18日(金)
	場所	川越市役所 7B会議室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 会長・副会長の選任について 川越市川越伝統的建造物群保存地区防災計画の策定について 平成28年度国庫補助事業について（修理事業について・文化財建造物等を活用した地域活性化事業について）
第2回	期日	平成29年3月23日(木)
	場所	美術館 アートホール
	出席者	7名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 川越市川越伝統的建造物群保存地区防災計画の策定について 建築基準法の特例措置について 川越市川越伝統的建造物群保存地区保存計画の一部を変更することについて 伝統的建造物の特定について 平成28年度国庫補助事業について（修理事業について・文化財建造物等を活用した地域活性化事業について）

4 河越館跡史跡整備事業

4-1 史跡の概要

1. 種 別 史跡
2. 名 称 河越館跡
3. 所 在 地 埼玉県川越市大字上戸 192 - 1 他
4. 指 定 等 種 別 昭和 59 年 12 月 6 日史跡指定
・ 年 月 日 文部省告示第 142 号
5. 指 定 理 由
 - (1) 指定基準 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準史跡 2 (城跡) による。
 - (2) 説明 河越館跡は川越市の北西部、入間川西岸に位置し、その規模は現存土塁の外周に検出された堀跡を含めて約 5 万平方メートルである。
河越館跡は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて有力な関東武士であった河越氏の城館の遺跡であり、中世武家政権を支えた在地領主の実態を究明する上においてもきわめて重要な遺跡である。

6. 指 定 地 域 川越市大字上戸 192 - 1 他

7. 指 定 地 の 面 積

市有地	常楽寺土地	その他民有地	合計
37,399㎡	8,491.18㎡	2,619㎡	48,509.18㎡

8. 管理団体又は所有者

- (1) 名称 川越市
- (2) 指定年月日 平成元年 7 月 31 日

9. 河越氏と河越館跡

河越氏は、桓武平氏・秩父氏の流れを汲み、平安末期から南北朝期にかけて繁栄し、武蔵国でも有数の勢力を誇った武士である。特に河越重頼は娘が源義経の正妻になったことで知られる。後に、重頼とその子重房は義経の縁者として誅される悲劇もあったが、その曾孫経重は高野山に町石を寄進し、新日吉山王宮に銅鐘を寄進するなどの事蹟を残し、以後、鎌倉幕府の有力御家人として活躍している。

南北朝の動乱後も、鎌倉府の下で勢力を保っていた河越氏であるが、応永元年(1368)に平一揆の中心となり、河越館に立て籠もって鎌倉府に反旗を翻した。しかし敗北し、以後歴史の表舞台から姿を消す。この河越館跡はその河越氏に関係するもので興亡の歴史を秘めた史跡である。

4-2 保存整備の経過

昭和7年	3月	河越館跡県指定史跡となる
昭和46年	3月～4月	範囲確認調査(第1次)
〃	7月～8月	範囲確認調査(第2次)
昭和47年	7月～8月	範囲確認調査(第3次)
昭和48年	7月	範囲確認調査(第4次)
〃	11月～12月	範囲確認調査(第5次)
〃	12月～49年2月	範囲確認調査(第6次)
昭和50年	5月～7月	範囲確認調査(第7次)
昭和51年	4月～7月	範囲確認調査(第8次)
昭和52年	5月～9月	範囲確認調査(第9次)
昭和59年	12月	河越館跡国指定史跡となる
昭和61年	3月	史跡河越館跡保存管理計画策定
昭和62年	3月	史跡河越館跡整備計画基礎調査報告書作成
平成元年	7月	川越市、史跡河越館跡の管理団体として指定を受ける
平成5年	1月～3月	常楽寺離れ建替の現状変更に伴う確認調査
平成7年	4月～8月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第1次)
平成9年	11月～10年2月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第2次)
平成10年	2月～10月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第3次)
平成11年	11月～12年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第4次)
平成13年	2月～3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第5次)
〃	3月	史跡河越館跡整備基本計画策定
〃	11月～14年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第6次)
平成14年	2月	常楽寺本堂建替の現状変更に伴う確認調査
〃	11月～15年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第7次)
平成15年	10月～16年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第8次)
平成16年	10月～17年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第9次)
平成17年	3月	国史跡河越館跡整備資料報告書作成
〃	10月～18年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第10次)
平成18年	3月	河越館跡史跡整備基本設計書策定
平成18年	11月～19年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第11次)
平成19年	12月	河越館跡(第1期)史跡整備実施設計書策定
平成19年	11月～20年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第12次)
平成20年	2月～3月	平成19年度分(第1期)史跡整備工事
平成20年	9月～21年3月	平成20年度分(第1期)史跡整備工事
平成20年	11月～21年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第13次)
平成21年	9月～21年10月	平成21年度分(1期)史跡整備工事
平成21年	11月～22年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第14次)
平成21年	11月	河越館跡史跡公園開園
平成22年	10月～23年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第15次)
平成23年	12月～24年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第16次)
平成28年	10月～29年1月	河越館跡用地測量業務委託

4-3 史跡整備に係る主な事業経過

平成 28 年度は用地取得の事前準備として、河越館跡用地測量業務を行った。

4-4 公有化の推移

年度	取得面積 (㎡)	取得面積 合計 (㎡)	公有化率	年度	取得面積 (㎡)	取得面積 合計 (㎡)	公有化率
昭和 45 年度	5,865	5,865	12%	平成 8 年度	1,393	20,406	42%
昭和 46 年度	6,741	12,606	26%	平成 9 年度	1,763	22,169	45%
昭和 47 年度	809	13,415	27%	平成 10 年度	10,286	32,455	67%
平成 元 年度	253	13,668	28%	平成 11 年度	1,638	34,093	70%
平成 2 年度	487	14,155	29%	平成 12 年度	181	34,274	70%
平成 3 年度	512	14,667	30%	平成 13 年度	1,999	36,273	74%
平成 4 年度	796	15,463	32%	平成 14 年度	295	36,568	75%
平成 5 年度	1,196	16,659	34%	平成 15 年度	204	36,772	76%
平成 6 年度	1,079	17,738	36%	平成 16 年度	395	37,167	77%
平成 7 年度	1,275	19,013	39%	平成 17 年度	232	37,399	77%

※公有化率は、公有化開始以降の推移がわかるように国指定地面積（48,509.18㎡）に対する公有地面積で示す。

4-5 河越館跡活用事業

(1) 河越流鏝馬

1. 開催日：平成 28 年 11 月 12 日（土）
2. 会場：国指定史跡河越館跡
3. 主催：河越流鏝馬実行委員会・川越市教育委員会
4. 協力：上戸小校区 8 自治会・上戸自治会・鯨井自治会・上戸芸能保存会・鯨井の万作保存会・(公社)小江戸川越観光協会・川越市文化財保護協会
5. 演武者：倭式騎馬會
6. 見学者数：約 4,500 人
7. 概要：市内上戸にある国指定史跡河越館跡の活用事業として「河越流鏝馬実行委員会」との共催のもと、河越流鏝馬を実施した。会場となった整備予定地には、南東から北西方向に約 190m の直線コースの馬場を設置。南東を馬場本、北西を馬場末とし、南東から北西に向かって馬を走らせた。
行事の流れとしては、地元保存会による芸能実演が行われたのち、常楽寺境内で出陣式が行われた。流鏝馬会場に移動し、天地人三才之儀、扇舞之儀が行われたのち、9 人の射手が馬を馳せて流鏝馬を行った。なお、正式の三的で行い、日本の在来馬を用いた。



地元保存会による芸能実演（鯨井）



地元保存会による芸能実演（上戸）



出陣式 常楽寺境内にて



流鏝馬

（２）行為許可

河越館跡史跡公園の利用にあたり、行為許可の対象となったものは下記のとおりである。

	行為日	行為目的
1	6月17日	館外学習講義
2	6月30日	記念写真撮影
3	10月22日	グラウンドゴルフ
4	10月31日	かわごえエコツアー
5	11月12日	河越流鏝馬行事
6	12月2日	校内持久走大会

5 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業

5-1 川越氷川祭の山車行事

川越氷川祭の山車行事は、氷川神社の例大祭である川越氷川祭に付随して行われる行事である。川越氷川祭は、江戸時代初期に川越藩主松平伊豆守信綱が氷川神社に祭礼用具を寄進して祭りを奨励したことがはじまりとされている。

氷川神社の氏子のうち旧十ヶ町と呼ばれる各町では、山車などの練物を出して神輿の神幸に供奉してきた。また、自町内や他の町にも山車を曳き、他町の山車と出会う際には、山車を向けて囃子を叩きあう「曳っかわせ」が行われるなど、祭事に伴う多彩な民俗も受け継いできた。現在では行事の規模、範囲が拡大し、市民まつりとしての側面も担っている。



平成 28 年の神幸祭

現在ある山車の形状は、上下可動式の二重鉾で上に人形を戴く江戸型山車であり、天下祭の影響を強く受けている。また、囃子台を自在な方向に向けられるように、土台上から回転する仕組みを持つ山車も多い。

10 台の山車が昭和 43 年から「川越氷川祭山車」として県の有形民俗文化財に指定され、平成 17 年から行事自体が「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。また、平成 28 年には「川越氷川祭の山車行事」を含む全国 33 件の祭礼行事が「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。

今後もこの行事を継続していくためには様々な問題を抱えているが、中でも近年は道路の舗装化や行事の毎年開催化の影響により、山車の劣化損傷が避けられない状況にある。人形や装飾品についても経年劣化や急な悪天候を原因とした汚損などが起こっている。このことから、国指定に係る 13 町が保有する 14 台の山車と、県指定に係る 1 町 1 台の山車について、損傷状況を調査した上で、順次保存修理事業を行っている。

5-2 保存修理事業

平成 28 年度は 1 町 1 台の山車について、保存修理を行った。

(1) 川越氷川祭の山車 六軒町の山車〈三番叟〉人形衣装等保存修理

事業名称 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業
対象文化財 重要無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事
埼玉県指定有形民俗文化財 川越氷川祭山車付 絵馬一面 絵巻一卷
事業期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

山車の概要

六軒町の山車は、三つ車・二重鉾・唐破風屋根・廻り舞台を持つ江戸型山車であり、山車人形は三番叟である。山車は明治 21 年（1888）に印藤吉五郎が製作し、山車人形は同年に仲秀英により製作されている。県の有形民俗文化財に指定されている。

破損状況と修理内容

人形衣装（上衣・袴・小袖）は昭和 25 年に製作されていたが、それぞれ経年による劣化が激しくなっていた。また、水引幕については製作年が不明であるが、衣装同様に経年による生地劣化、変色、裂けがみられた。そのため修理委員会での審議を仰ぎ、平成 28 年度事業として修理を行った。このうち衣装は復元修理、水引幕は復元新調を実施した。衣装の修理は学校法人女子美術大学、水引幕の復元新調は株式会社川島織物セルコンが行った。



上衣（修理後）

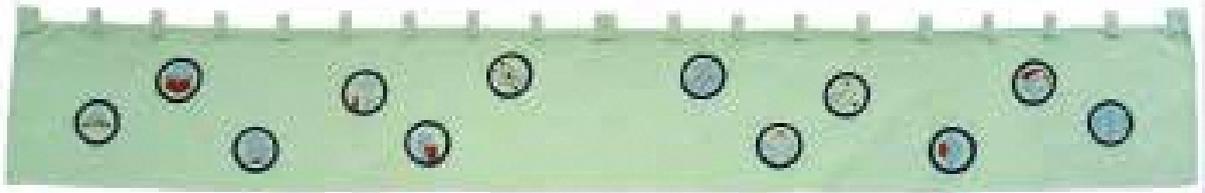


小袖（修理後）



袴（修理後）

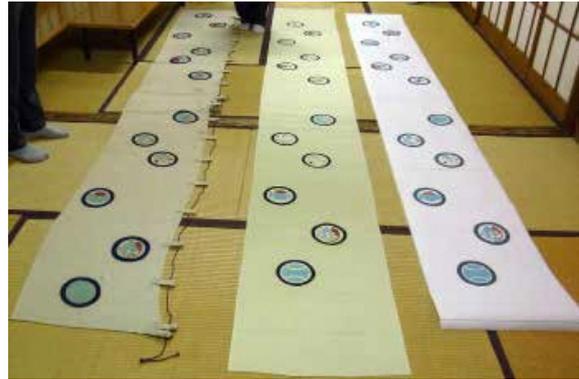
（写真提供 学校法人女子美術大学、撮影者；坂本敦宏）



水引幕



図案拡大



完了後の検品作業

(写真提供 株式会社川島織物セルコン)

5-3 ユネスコ無形文化遺産登録

申請・登録の経緯

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は、相互の風習と生活について理解を深める目的で「無形文化遺産の保護に関する条約」を採択し、この条約に基づき「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（以下、「代表一覧表」）」等を作成している。この代表一覧表に記載されることにより、ユネスコ無形文化遺産に登録されることになる。

日本では、文化庁が「川越氷川祭の山車行事」を含む、国重要無形民俗文化財に指定されている32件の行事を「山・鉦・屋台行事」としてグループ化し、平成26年3月に代表一覧表への記載をユネスコに提案した。本来は平成27年中に審査が行われる予定であったが、審査件数の上限を上回る提案があったため、国際ルールに基づき、登録件数が多い日本の申請は1年先送りされることになった。このため、平成27年3月に33件（平成27年中に国指定となった行事1件を追加）で再度提案することにした。

その後、平成28年10月にユネスコ評価機関から記載の勧告を受け、これを踏まえて平成28年11月30日（日本時間12月1日）に開催された第11回政府間委員会において、「山・鉦・屋台行事」を代表一覧表に記載することが決定された。

ユネスコ無形文化遺産に含まれる山・鉾・屋台行事（33件）

八戸三社大祭の山車行事	高岡御車山祭の御車山行事	須成祭の車楽船行事と神葎流し
角館祭りのやま行事	魚津のタテモン行事	鳥出神社の鯨船行事
土崎神明社祭の曳山行事	城端神明宮祭の曳山行事	上野天神祭のダンジリ行事
花輪祭の屋台行事	青柏祭の曳山行事	桑名石取祭の祭車行事
新庄まつりの山車行事	高山祭の屋台行事	長浜曳山祭の曳山行事
日立風流物 ※	古川祭の起し太鼓・屋台行事	京都祇園祭の山鉾行事 ※
烏の山あげ行事	大垣祭の軋行事	博多祇園山笠行事
鹿沼今宮神社祭の屋台行事	尾張津島天王祭の車楽舟行事	戸畑祇園大山笠行事
秩父祭の屋台行事と神楽	知立の山車文楽とからくり	唐津くんちの曳山行事
川越氷川祭の山車行事	犬山祭の車山行事	八代妙見祭の神幸祭
佐原の山車行事	亀崎潮干祭の山車行事	日田祇園の曳山行事

※の2件は平成21年に単独行事として登録されていた。

登録記念イベントの開催と啓発事業

上記の決定を受けて、平成28年12月1日（木）に川越まつり会館において記念のセレモニーおよび記者会見を開催した。また、同年12月17日（土）には、登録記念イベントとして記念式典（登録の報告、くす玉割りなど）及び4台の山車による山車曳行イベントを開催し、見学者は18,600人であった。

今後は川越市民だけではなく川越を訪れる人たちに向けても「川越氷川祭の山車行事」やユネスコ無形文化遺産について周知するため、事業を実施する予定である。



登録記念式典の様子

6 指定文化財の管理

6-1 指定文化財保存事業（補助事業）

平成 28 年度に補助金を交付した保存事業は以下のとおりである。

(1) 有形文化財・建造物の防災設備保守点検（川越市補助金総交付額 364,000 円）

重要文化財	喜多院客殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	東照宮本殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	日枝神社本殿	防災設備保守点検	経常
〃	大沢家住宅	防災設備保守点検	経常
県指定文化財	三芳野神社社殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	氷川神社本殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	古尾谷八幡神社社殿	防災設備保守点検	経常
市指定文化財	原家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	小島家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	田中家住宅	防災設備保守点検	経常

(2) 史跡・天然記念物の保存（川越市補助金総交付額 808,000 円）

県指定文化財	川越城跡	環境整備	臨時
市指定文化財	愛宕神社古墳	環境整備（ケヤキ伐採）	臨時
〃	愛宕神社古墳	環境整備	経常
〃	上戸日枝神社	環境整備	経常
〃	原田家住宅	環境整備	経常
〃	鯨井のヒイラギ	環境整備	経常

(3) 有形文化財の修理（川越市補助金総交付額 66,378,000 円）

国指定文化財	喜多院保管指定文化財	燻蒸・殺虫	経常
〃	大沢家住宅	雨樋修理	臨時
県指定文化財	三芳野神社社殿 ※	保存修理	臨時
〃	三芳野神社社殿	消防ポンプ修理	臨時
市指定文化財	松平大和守家廟所 ※	保存修理	臨時
〃	元町 2 丁目六塚稻荷神社本殿 ※	保存修理	臨時
〃	砂久保稻荷神社本殿	保存修理	臨時
〃	原田家住宅	保存修理	臨時
〃	福田家住宅	保存修理	臨時

※ 社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）の対象事業

(4) 有形民俗文化財の修理 (川越市補助金総交付額 520,000 円)

国指定文化財	川越氷川祭の山車行事	山車の保存修理 (六軒町)	臨時
市指定文化財	幸町服部家具	保存修理	臨時
〃	下小坂の獅子舞	衣装新調・提灯修理	臨時

6-2 文化財保存団体への助成と活動状況

(1) 無形民俗文化財の後継者育成・保存事業 (川越市補助金総交付額 1,040,000 円)

埼玉県・川越市指定無形民俗文化財 15 件について後継者育成・保存事業を実施、各団体に補助金を交付した。補助金を交付した文化財は次のとおりである。

県指定無形民俗文化財	川越祭りばやし (中台)
〃	老袋の万作
〃	ほろ祭り
〃	老袋の弓取式
市指定無形民俗文化財	南田島の足踊り
〃	鯨井の万作
〃	中福の神楽
〃	筒がゆの神事
〃	芳地戸のふせぎ
〃	まんぐり
〃	福田の獅子舞
〃	上寺山の獅子舞
〃	川越の木遣り
〃	下小坂の獅子舞
〃	石田の獅子舞

(2) 文化財関係団体への助成 (川越市補助金総交付額 400,000 円)

文化財の保護・普及を目的に活動している文化財保護団体に対し、団体育成のため川越市補助金を交付した。

川越氷川祭の山車行事保存会
川越市文化財保護協会

6-3 主な保存事業

(1) 三芳野神社社殿保存修理

事業名称 三芳野神社社殿保存修理事業
対象文化財 県指定有形文化財（建造物）三芳野神社社殿 付明暦2年の棟札一枚1棟
所在地 川越市郭町2-25-11
事業期間 平成28年4月1日～29年3月31日

概要

三芳野神社社殿は、本殿と拝殿を幣殿でつないだ権現造りである。寛永元年（1624）に幕命により酒井忠勝（後の川越城主）が造営、その後、明暦2年（1656）に時の川越城主・松平信綱により改修が行われた。さらに、弘化4年（1848）にこけら葺きから瓦葺きへ、大正11年には銅板葺きに改められた。

平成元年度から3年度にかけての半解体修理では、主に木部修理と屋根の葺き替えが行われたが、漆・彩色の修理は次期修理として実施されなかった。

このような状況により平成27年度から平成30年度まで4箇年の予定で、損朽の著しい社殿全体の漆・彩色の塗り直しを主とする保存修理工事を行うこととなった。

平成28年度は事業の2年目であり、主に社殿外部の塗工事を実施した。

平成28年度の工事内容

社殿外部 本殿・幣殿・拝殿の内法長押より上部（軸部・垂木・軒廻）

漆塗り掻き落とし・漆（弁柄漆）塗り

蟄股：取り外し・彩色掻き落とし・彩色

妻：金具取り外し・漆塗り掻き落とし・漆（弁柄漆）塗り

琵琶板・化粧裏板：彩色（黄土）掻き落とし

社殿内部 本殿・幣殿・拝殿の内法長押より上部

漆（弁柄漆）塗り

小組天井取り外し・補修、天井板・彩色（黄土）（幣拝殿）



仮囲い設営状況（南から）



仮囲い状況（南西から）



金具の取り外し（本殿東妻）



漆（弁柄漆）塗り後（本殿西妻）



彩色（黄土）の掻き落とし（拝殿向拝・化粧裏板）



漆（弁柄漆）塗り後（拝殿向拝西側）



墓股の取り外し（幣殿西側）



漆（弁柄漆）塗り後（拝殿東側）



漆（弁柄漆）塗り後（社殿内部－拝殿から本殿）



漆（弁柄漆）塗り後（社殿内部－幣殿）

(2) 元町2丁目六塚稲荷神社本殿保存修理

事業名称	元町2丁目六塚稲荷神社本殿保存修理事業
対象文化財	市指定有形文化財（建造物）元町2丁目六塚稲荷神社本殿 付文政二年棟札 1棟
所在地	川越市元町2-8-12
事業期間	平成28年4月1日～29年3月31日

概要

元町2丁目六塚稲荷神社本殿は、文政2年（1819）に再建された江戸彫を多用する社殿である。川越における江戸彫社殿として古い時期に属す。建てられてから今日まで大規模な修理はなされておらず、今日経年劣化により損朽が著しい状況である。よって、社殿保存のため、平成26年度から28年度にかけて保存修理を実施することとなった。

平成28年度は、事業の最終年度に当たり、本殿の半解体工事（工事2箇年の2年目）を行い、3箇年にわたるすべての事業を終了した。

平成28年度の事業内容

- 屋根：野地板・瓦棒下地・箱棟・正面軒廻り（茅負・飛檐垂木・裏甲・破風板）
補修、銅板葺き直し
縁廻り：縁板・高欄補修、向拝柱：下部補修・復元、扉：飾り金具補修



屋根銅板葺き替え（北東から）



修理後（南東から）



基壇内及び基壇内で見つかった狐土人形（鉄砲狐）



修理後（東から）

(3) 松平大和守家廟所保存整備

事業名称 松平大和守家廟所保存整備事業
対象文化財 市指定有形文化財（史跡）松平大和守家廟所
所在地 川越市小仙波町1-20-8（喜多院内）
事業期間 平成28年6月13日～29年3月31日

概要

松平大和守家廟所は、江戸後期から幕末期に川越城主であった松平大和守家歴代当主の墓所である。喜多院・慈恵堂の裏手に位置し、東から霊鷲院（5代朝矩）・俊徳院（6代直恒）・馨徳院（7代直温）・興国院（8代齐典）、南側に1基独立して建中院（10代直侯）という配置である。

近年、経年劣化や震災等の影響により石塔類の傾きや基壇の不陸が著しく、史跡の保存整備が必要となり、平成26年度から5箇年の予定で保存整備を実施中である。平成28年度は、保存整備の3年目であり、馨徳院・興国院・建中院廟3基の解体工事を行った上で、この内、2基の整備工事を実施した。

平成28年度の工事内容

馨徳院廟（7代直温）・興国院廟（8代齐典）解体工事・整備工事
建中院廟（10代直侯）解体工事



馨徳院・興国院廟の解体（南西から）



建中院廟の解体（南東から）



馨徳院・興国院廟の整備工事中状況（南東から）



馨徳院・興国院廟の保存整備後（南西から）

(4) 砂久保稲荷神社本殿保存修理

事業名称 砂久保稲荷神社本殿保存修理事業
対象文化財 市指定有形文化財（建造物）砂久保稲荷神社本殿 付天保十四年棟札 1棟
所在地 川越市大字砂久保 66
事業期間 平成28年4月13日～6月7日

概要

砂久保稲荷神社本殿は、やや小型の一間社流造・板葺の社殿であり、身舎壁面に江戸彫彫刻を多用する。棟札により、天保14年（1843）に造営された社殿と判明する。建てられてから今日まで大規模な修理はなされておらず、近年、経年劣化により組物の緩みや高欄・脇障子の部材の欠失や脱落がみられるため、平成28年度に部分的な保存修理を実施した。

平成28年度の事業内容

組物：緩みの補修 高欄：緩み・脱落の補修、欠失部材の新規作製・取り付け
脇障子：緩みの補修、欠失部材の新規作製・取り付け 飾り金物：変形等の補修



高欄部材の緩みや脱落（修理前）



高欄部材の欠失や変形（修理前）



全景（修理後）



高欄（修理後）

7 文化財調査

7-1 古文書調査

平成 28 年度より、市内に残された古文書について、所蔵者から借用し、整理する事業を行っている。平成 28 年度は、奥富家文書、小林家文書の整理作業を行った。

8 文化財の活用

8-1 資料の貸出

平成 28 年度には 13 件の依頼を受け、下記のとおり資料の貸出しを行った。

(1) 常設展等に貸与した資料（6 件）

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	4 月 1 日～ 3 月 31 日	入間市博物館	常設展『人間の歴史』に展示	小仙波四丁目遺跡出土遺物 5 点
2	4 月 1 日～ 3 月 31 日	学校法人ひまわり学園	新園舎内展示ケースに展示	寿町東遺跡出土遺物 10 点
3	4 月 1 日～ 3 月 31 日	埼玉県立歴史と民俗の博物館	常設展『埼玉における人々のくらしと文化』に展示	河越館跡出土遺物 9 点
4	4 月 1 日～ 3 月 31 日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	弁天南遺跡出土遺物ほか 3 点
5	12 月 12 日～ 3 月 31 日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	八幡前・若宮遺跡出土遺物 4 点
6	12 月 10 日～ 3 月 31 日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	弁天西遺跡出土遺物ほか 2 点

(2) 特別展・企画展等に貸与した資料（7 件）

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	7 月 6 日～ 9 月 8 日	戸田市立郷土博物館	特別展『埴輪が語る戸田市の古墳時代』に展示	南大塚 4 号墳出土遺物 1 点
2	7 月 7 日～ 9 月 2 日	市立博物館	第 2 回川越の指定文化財展『未来に受け継ぐ、郷土の宝物』展に展示	大堀山館跡出土遺物 8 点
3	7 月 27 日～ 12 月 27 日	市立博物館	企画展『城下町川越の町人世界』に展示	元町 2 丁目遺跡出土遺物 9 点
4	8 月 26 日～ 3 月 31 日	蓮田市文化財展示館	企画展『埼玉の関山式土器・黒浜式土器』展に展示	弁天南遺跡出土遺物ほか 10 点と 2 箱
5	9 月 1 日～ 12 月 7 日	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館	特別展『中世那須のあけぼの』展に展示	河越館跡出土遺物ほか 40 点
6	9 月 15 日～ 11 月 22 日	埼玉県立さきたま史跡の博物館	企画展『埼玉の古墳 1』に展示	三変稻荷神社古墳出土遺物 1 点
7	10 月 21 日～ 12 月 13 日	飯能市郷土館	特別展『高麗人集結』に展示	霞ヶ関遺跡出土遺物 2 点

8-2 市指定文化財の活用状況

(1) 時の鐘

概要

文化財保護課では、鐘撞堂とも呼ばれ、長く川越の人々に親しまれてきた「時の鐘」（昭和33年市指定文化財（有形文化財・建造物）に指定）の管理をおこなっている。

「時の鐘」は、小江戸川越のシンボルとして訪れる観光客も多く、平成8年には環境庁（当時）の「残したい日本の音風景百選」にも認定された。現在でも午前6時、正午、午後3時、午後6時に各6回づつ鐘を撞いて時を報せている。



平成28年度の活用事業

時の鐘耐震化工事実施のため、活用事業なし。

(2) 永島家住宅（旧武家屋敷）

概要

永島家住宅は、川越城南大手門近くの武家地であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた武家屋敷である。

古文書や絵図資料から、その武家屋敷に住んでいた武士は、松平大和守家時代には250石から350石、最後の松平周防守家時代には110石の武士が住んでいたことがわかっている。また、特に御典医の居住が知られ、周防守家の石原昌廸は、30名ほどからなる藩医の筆頭の立場にあったことがわかっている。

明治時代には、石原家そのまま屋敷としていた。石原昌廸の二男・久は、東京帝大に進学しドイツ留学を経て帝大の口腔外科初代教授に就任している。久が留学する頃から永島家が屋敷を借りて住み始め、大正6年に石原氏から買い取っている。



経過

- | | | |
|-------|---------|---|
| 平成17年 | 7月 | 永島家住宅の市買取り保存整備要望がオンブズマン会議に申し立てられる。 |
| 〃 | 11月～12月 | 川越市文化財保護審議会が文化的な価値を判断するために調査。 |
| 平成18年 | 3月27日 | 永島家住宅（旧武家屋敷）が市指定文化財になる。
[種別・史跡 面積 1,184.62㎡] |
| 平成21年 | 6月 | 史跡の一部（302.46㎡）が永島氏より市に寄付される。 |
| 平成22年 | 8月 | 東海大学情報デザイン工学部羽生研究室が建物調査。 |
| 〃 | 9月 | 史跡の残地全部（882.16㎡）が永島氏から市に寄付される。 |

平成 23 年 6 月 「歴史まちづくり法」の「歴史的風致維持向上計画」の「重点区域における施策・事業」に位置付けられる。

〃 7 月 建物の 8 割（146.53㎡）が、永島氏から寄付される。併せて残り約 2 割（31.41㎡）の建物を市が無償貸借することを契約する。

〃 8 月 第 1 回永島家住宅保存管理計画策定委員会

〃 10 月 第 2 回永島家住宅保存管理計画策定委員会

平成 24 年 1 月 第 3 回永島家住宅保存管理計画策定委員会

〃 3 月 第 4 回永島家住宅保存管理計画策定委員会（永島家住宅保存管理計画書完成）

庭園の一般公開を開始する。

平成 26 年 2 月 塀等取替修繕

平成 28 年 4 月 建物（無償貸借していた 31.41㎡）が、永島氏から寄付される。これにより史跡の土地及び建物全部が市所有となった。

庭園公開

一般公開 毎月第 3 土曜日

特別公開 川越まつり（日曜日）、市民の日（12 月 1 日）、小江戸川越春まつりオープニング日（3 月 25 日）、

公開時間 午前 9 時～午後 4 時

平成 28 年度 見学者数

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
見学者（人）	78	155	49	58	21	61	1,010	21	315	42	66	351	2,227



庭園公開日



土間

9 埋蔵文化財

川越市内には、345カ所の埋蔵文化財包蔵地があり、これらは国・県の指導により分布調査を行い設定したものである。この包蔵地内で土木工事などの開発行為を行う場合には、工事に先立って、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が必要である。平成28年度は以下のとおり92件の試掘調査を実施した。

試掘調査により埋蔵文化財の存在が認められた場合は開発者側と保存について協議を行い、開発によって破壊を免れない埋蔵文化財については、遺跡の姿を後世に伝えることを目的とした緊急発掘調査を実施している。平成28年度は5件の発掘調査を行い、多くの遺構が検出され、遺物が出土している。

9-1 埋蔵文化財調査一覧

(1) 発掘調査件数の推移

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	10年間の合計
件数	18	15	15	7	10	6	4	1	4	4	84件
前年度からの継続	2	2	1	2	2	1	0	1	0	1	—
合計	20	17	16	9	12	7	4	2	4	5	—

(2) 発掘調査一覧

	遺跡名	調査 回数	調査地番	原因	調査面積
			調査期間	調査主体	時代
1	霞ヶ関遺跡	23次	上戸新町 16-5・6・7、36-8	道路建設	250㎡
			4月1日～5月18日 ※1	教育委員会	弥生・古墳・奈良
2	喜多院境内遺跡	4次	小仙波町 1-20-8	史跡保存整備	18㎡
			10月11日～21日、3月10日～16日	教育委員会	江戸後期
3	登野山遺跡	2次	大字笠幡 3001-12・13	公共施設建設	925㎡
			10月31日～1月31日	教育委員会	奈良・平安
4	山王塚古墳	3次	大塚 1-21-12ほか	範囲内容確認	90㎡
			7月11日～10月5日	教育委員会	古墳
5	豊後山遺跡	2次	大字的場字豊後山 2426ほか	道路建設	1,029㎡
			2月10日～3月31日 ※2	教育委員会	奈良～中世

※1 前年度から継続

※2 次年度に継続

(3) 試掘調査一覧

<<結果欄について>> 遺構なし…× 遺構あり…○ 本発掘調査実施…◎
--

	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
1	4月 1日	大字寺尾 232 - 2	340㎡	寺尾貝塚	×
2	4月 8日	大字上戸 362	1,021㎡	龍光遺跡	×
3	4月 8日	大字鴨田 1565 - 1	250㎡	道下 C 遺跡	×
4	4月 12日	大字上戸 257 - 3	262㎡	新田屋敷遺跡	×
5	4月 14日	宮下町 1 - 17 - 32	100㎡	川越城跡	×
6	4月 15日	大字笠幡 237 - 6 ほか	1,518㎡	前大町遺跡	×
7	4月 19日	豊田町 2 - 23 - 22	800㎡	大陣遺跡	×
8	4月 26日	大字下小坂 728 接道部 (地番なし)	140㎡	仲田端遺跡	×
9	5月 9日	霞ヶ関東 4 - 6 - 8	200㎡	霞ヶ関遺跡	○
10	5月 10日	広栄町 16 - 13 ほか	302㎡	広栄町遺跡	×
11	5月 12日	大手町 6 - 13	90㎡	川越城跡	×
12	5月 19日	大字寺尾 155 - 2	2,070㎡	寺尾貝塚	×
13	5月 23日	大字寺尾 87 - 1 ほか	745㎡	寺尾貝塚	×
14	5月 24日	大字寺尾 154 - 1	420㎡	寺尾貝塚	×
15	5月 25日	大字吉田 58 - 20	494㎡	堂山遺跡	×
16	5月 30日	小仙波町 4 - 4 - 6 ほか	140㎡	弁天西遺跡	○
17	5月 31日	仙波町 3 - 11 - 5 ほか	499㎡	弁天西遺跡	○
18	6月 1日	大字下広谷 612 - 13	170㎡	在家遺跡	×
19	6月 3日	大字山田 281 - 1 の一部 ほか	1,902㎡	南山田遺跡	×
20	6月 6日	大字寺尾 300 - 5	92㎡	寺尾貝塚	×
21	6月 14日	郭町 2 - 13 - 1 ほか	20㎡	川越城跡	○
22	6月 16～17日	郭町 2 - 21 - 4 ほか	1,324㎡	川越城跡	×
23	6月 21日	稲荷町 6 - 94	68㎡	藤原町遺跡	×
24	6月 27日	大字寺尾 316 - 1 ほか	120㎡	寺尾貝塚	×
25	7月 1日	大字並木 299 - 1 ほか	1,500㎡	並木遺跡	×
26	7月 6日	西小仙波町 1 - 15 - 1	568㎡	喜多院境内遺跡	×
27	7月 19～20日	中台元町 1 - 25 - 1	2,743㎡	中台 A 遺跡	×
28	7月 22日	大字今泉 157 - 1 ほか	223㎡	西河原遺跡	×
29	7月 25日	仙波町 3 - 19 - 1	303㎡	弁天南遺跡	×
30	7月 28日	小仙波町 5 - 7 - 4	210㎡	弁天西遺跡	×
31	8月 2日	大字上戸 272 - 5	697㎡	新田屋敷遺跡	×
32	8月 5日	大字寺尾 97 - 1 ほか	1,700㎡	寺尾貝塚	○
33	8月 8～9日	大字寺尾 112 ほか	2,900㎡	寺尾貝塚	×
34	8月 10日	仙波町 3 - 22 - 13 ほか	479㎡	弁天南遺跡	○
35	8月 19日	稲荷町 3 - 6	230㎡	藤原町遺跡	×
36	8月 24日	大字寺尾 897 - 29	110㎡	寺尾貝塚	×
37	8月 29日	大字上戸 69 - 11	380㎡	山王久保遺跡	×
38	8月 31日	大字大袋新田 1390 - 1 ほか	1,150㎡	愛宕側遺跡	×
39	9月 9日	大字寺尾 273 - 32	130㎡	寺尾貝塚	×
40	9月 14日	郭町 1 - 14 - 2	140㎡	川越城跡	×
41	9月 16日	大手町 11 - 28 ほか	337㎡	川越城跡	×
42	9月 23日	大字古市場 362 - 3	200㎡	南久我原遺跡	×
43	10月 5日	大字大仙波 1067 - 2 ほか	1,450㎡	大仙波遺跡	×
44	10月 11～12日	大字寺尾 111 - 1 ほか	1,940㎡	寺尾貝塚	×
45	10月 12日	広栄町 21 - 6	390㎡	山王脇遺跡	×

	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
46	10月13日	大字古谷上4174-3ほか	89㎡	善仲館跡	×
47	10月18日	大字小堤546-35ほか	230㎡	新嘗井遺跡	○
48	10月20日	大字的場598-29	120㎡	西若宮遺跡	×
49	10月31日	大字寺尾94-1	100㎡	寺尾貝塚	×
50	11月8日	仙波町3-5-10	220㎡	弁天南遺跡	○
51	11月14日	大字南田島483-1ほか	298㎡	南田島遺跡	○
52	11月16日	大字寺尾288-14	142㎡	寺尾貝塚	○
53	11月17日	仙波町3-19-2	780㎡	弁天南遺跡	○
54	11月18日	仙波町3-15-9	244㎡	弁天西遺跡	○
55	11月21日	大字笠幡2077-6ほか	281㎡	南本町遺跡	×
56	11月28日	大字小堤546-2	431㎡	新嘗井遺跡	×
57	11月28日	諏訪町7-7	343㎡	藤原町遺跡	×
58	11月29日	仙波町3-5-1	434㎡	弁天南遺跡	○
59	11月29日	郭町2-1-9ほか	392㎡	川越城跡	×
60	12月5～6日	大字吉田70-2	1,520㎡	堂山遺跡	×
61	12月8日	大字寺尾288-15	132㎡	寺尾貝塚	○
62	12月9日	郭町2-16-26	152㎡	川越城跡	×
63	12月13日	小仙波町3-18-11	320㎡	小仙波四丁目遺跡	○
64	12月14日	大字上戸274-11	150㎡	日枝神社遺跡	×
65	12月22日	仙波町3-13-10	180㎡	弁天西遺跡	×
66	12月27日	大字大袋221-23ほか	320㎡	前畑北遺跡	×
67	1月10～13日	大字の場2426ほか	4,381㎡	豊後山遺跡	◎
68	1月13日	大字の場2464-46ほか	110㎡	下宿東遺跡	×
69	1月17日	大字の場471-7	100㎡	八幡前・若宮遺跡	×
70	1月18～19日	大字寺尾150	3,120㎡	寺尾貝塚	×
71	1月23日	西小仙波町1-13-1	188㎡	喜多院境内遺跡	×
72	1月24日	大字の場2530-3	100㎡	走下り西遺跡	×
73	1月25日	大字古谷上4151の一部	401㎡	善仲寺館跡	×
74	1月27日	大字鯨井662-1	200㎡	会下遺跡	×
75	2月3日	大字南田島1004-1	446㎡	南田島遺跡	×
76	2月6日	大字高島506ほか	125㎡	高島遺跡	×
77	2月7日	大手町11-31	92㎡	川越城跡	×
78	2月8日	稲荷町3-23	322㎡	藤原町遺跡	○
79	2月9日	大字の場794-16	498㎡	五畑東遺跡	×
80	2月10日	大字並木887-20	144㎡	並木遺跡	×
81	2月21日	広栄町22-28	297㎡	山王脇遺跡	×
82	2月24日	大字下広谷654-9	223㎡	宮廻遺跡	×
83	3月3日	大字の場2464-1ほか	1,100㎡	牛塚西遺跡	○
84	3月9日	大字寺尾72-2ほか	1,084㎡	寺尾貝塚	×
85	3月13日	小仙波町4-4-5の一部	199㎡	弁天西遺跡	○
86	3月15日	郭町2-23-11ほか	220㎡	川越城跡	×
87	3月16日	中台2-10-22ほか	207㎡	大塚遺跡	×
88	3月21日	郭町2-1-15	50㎡	川越城跡	×
89	3月22日	大字下広谷491-5	354㎡	天神前遺跡	×
90	3月22～23日	大字寺尾200ほか	1,797㎡	寺尾貝塚	×
91	3月27日	大字小堤546-3ほか	466㎡	新嘗井遺跡	×
92	3月31日	西小仙波町1-8-10	270㎡	喜多院境内遺跡	×

9-2 試掘調査

No. 1 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 232-2
調査面積 340㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 1 日
調査原因 賃貸住宅
調査結果 遺構なし



No. 2 龍光遺跡 (19-47)

調査地番 大字上戸 362
調査面積 1,021㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 8 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No. 3 道下C遺跡 (19-243)

調査地番 大字鴨田 1565-1
調査面積 250㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 8 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No. 4 新田屋敷遺跡 (19-48)

調査地番 大字上戸 257-3
調査面積 262㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 12 日
調査原因 貸家
調査結果 遺構なし



No. 5 川越城跡 (18 - 89)

調査地番 宮下町 1 - 17 - 32
調査面積 100㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 14 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No. 6 前大町遺跡 (19 - 96)

調査地番 大字笠幡 237 - 6 ほか
調査面積 1,518㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 15 日
調査原因 保育園
調査結果 遺構なし



No. 7 大陣遺跡 (19 - 94)

調査地番 豊田町 2 - 23 - 22
調査面積 800㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 19 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No. 8 仲田端遺跡 (19 - 12)

調査地番 大字下小坂 728 接道部 (地番なし)
調査面積 140㎡
調査期日 平成 28 年 4 月 26 日
調査原因 ほ場整備
調査結果 遺構なし



No. 9 霞ヶ関遺跡 (19 - 51)

調査地番 霞ヶ関東4-6-8
調査面積 200㎡
調査期日 平成28年5月9日
調査原因 集合住宅
調査結果 遺構あり(古代・住居跡)
対 応 盛土保存



No.10 広栄町遺跡 (19 - 52)

調査地番 広栄町16-13ほか
調査面積 302㎡
調査期日 平成28年5月10日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.11 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 大手町6-13
調査面積 90㎡
調査期日 平成28年5月12日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.12 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾155-2
調査面積 2,070㎡
調査期日 平成28年5月19日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.13 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 87 - 1 ほか
調査面積 745㎡
調査期日 平成 28 年 5 月 23 日
調査原因 分譲住宅
調査結果 遺構なし



No.14 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 154 - 1
調査面積 420㎡
調査期日 平成 28 年 5 月 24 日
調査原因 建売住宅
調査結果 遺構なし



No.15 堂山遺跡 (19 - 30)

調査地番 大字吉田 58 - 20
調査面積 494㎡
調査期日 平成 28 年 5 月 25 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.16 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 小仙波町 4 - 4 - 6 ほか
調査面積 140㎡
調査期日 平成 28 年 5 月 30 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古代・住居跡)
対 応 盛土保存



No.17 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 仙波町 3 - 11 - 5 ほか
調査面積 499㎡
調査期日 平成 28 年 5 月 31 日
調査原因 共同住宅
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)
対 応 盛土保存



No.18 在家遺跡 (19 - 5)

調査地番 大字下広谷 612 - 13
調査面積 170㎡
調査期日 平成 28 年 6 月 1 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.19 南山田遺跡 (19 - 66)

調査地番 大字山田 281 - 1 の一部 ほか
調査面積 1,902㎡
調査期日 平成 28 年 6 月 3 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.20 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 300 - 5
調査面積 92㎡
調査期日 平成 28 年 6 月 6 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.21 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 2 - 13 - 1 ほか
調査面積 20m²
調査期日 平成 28 年 6 月 14 日
調査原因 公園植樹
調査結果 遺構あり (近世・造成面)
対 応 現状保存



No.22 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 2 - 21 - 4 ほか
調査面積 1,324m²
調査期日 平成 28 年 6 月 16 日 ~ 17 日
調査原因 建売住宅
調査結果 遺構なし



No.23 藤原町遺跡 (19 - 142)

調査地番 稲荷町 6 - 94
調査面積 68m²
調査期日 平成 28 年 6 月 21 日
調査原因 建売 8 住宅
調査結果 遺構なし



No.24 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 316 - 1 ほか
調査面積 120㎡
調査期日 平成 28 年 6 月 27 日
調査原因 貸家
調査結果 遺構なし



No.25 並木遺跡 (19 - 326)

調査地番 大字並木 299 - 1 ほか
調査面積 1,500㎡
調査期日 平成 28 年 7 月 1 日
調査原因 共同住宅
調査結果 遺構なし



No.26 喜多院境内遺跡 (19 - 110)

調査地番 西小仙波町 1 - 15 - 1
調査面積 568㎡
調査期日 平成 28 年 7 月 6 日
調査原因 分譲住宅
調査結果 遺構なし



No.27 中台A遺跡 (19 - 128)

調査地番 中台元町 1 - 25 - 1
調査面積 2,743㎡
調査期日 平成 28 年 7 月 19 日～ 20 日
調査原因 店舗
調査結果 遺構なし



No.28 西河原遺跡 (19 - 321)

調査地番 大字今泉 157 - 1 ほか
調査面積 223㎡
調査期日 平成 28 年 7 月 22 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



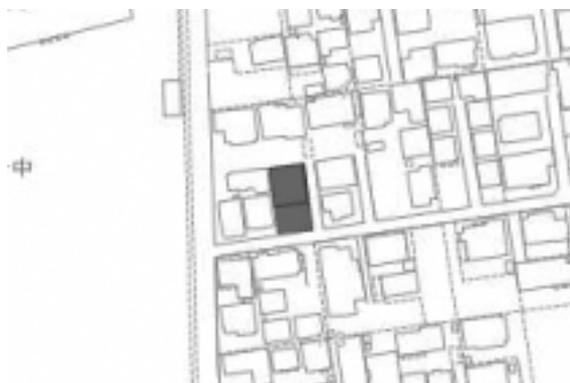
No.29 弁天南遺跡 (19 - 118)

調査地番 仙波町 3 - 19 - 1
調査面積 303㎡
調査期日 平成 28 年 7 月 25 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.30 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 小仙波町 5 - 7 - 4
調査面積 210㎡
調査期日 平成 28 年 7 月 28 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.31 新田屋敷遺跡 (19 - 48)

調査地番 大字上戸 272 - 5
調査面積 697㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 2 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.32 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 97 - 1 ほか
調査面積 1,700㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 5 日
調査原因 建売住宅
調査結果 遺構あり (縄文・住居跡)
対 応 盛土保存



No.33 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 112 ほか
調査面積 2,900㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 8 日～9 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.34 弁天南遺跡 (19 - 118)

調査地番 仙波町 3 - 22 - 13 ほか
調査面積 479㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 10 日
調査原因 集合住宅
調査結果 遺構あり (縄文 / 古代・住居跡)
対 応 盛土保存



No.35 藤原町遺跡 (19 - 142)

調査地番 稻荷町 3 - 6
調査面積 230㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 19 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.36 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 897 - 29
調査面積 110㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 24 日
調査原因 建売住宅
調査結果 遺構なし



No.37 山王久保遺跡 (19 - 50)

調査地番 大字上戸 69 - 11
調査面積 380㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 29 日
調査原因 共同住宅
調査結果 遺構なし



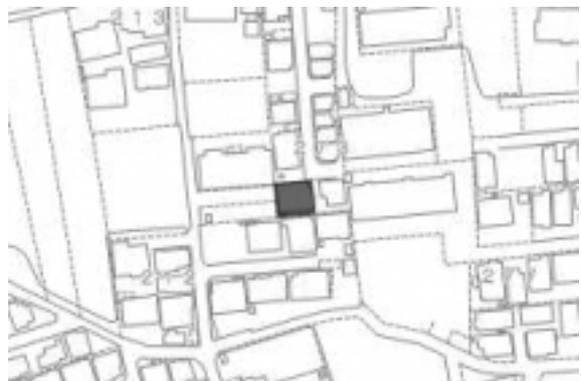
No.38 愛宕側遺跡 (19 - 215)

調査地番 大字大袋新田 1390 - 1 ほか
調査面積 1,150㎡
調査期日 平成 28 年 8 月 31 日
調査原因 店舗
調査結果 遺構なし



No.39 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 273 - 32
調査面積 130㎡
調査期日 平成 28 年 9 月 9 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.40 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 1 - 14 - 2
調査面積 140㎡
調査期日 平成 28 年 9 月 14 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.41 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 大手町 11 - 28 ほか
調査面積 337㎡
調査期日 平成 28 年 9 月 16 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.42 南久我原遺跡 (19 - 322)

調査地番 大字古市場 362 - 3
調査面積 200㎡
調査期日 平成 28 年 9 月 23 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.43 大仙波遺跡 (19 - 324)

調査地番 大字大仙波 1067 - 2 ほか
調査面積 1,450㎡
調査期日 平成 28 年 10 月 5 日
調査原因 水路整備
調査結果 遺構なし



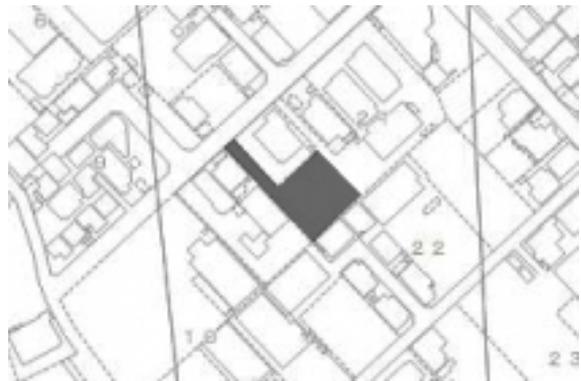
No.44 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 111 - 1 ほか
調査面積 1,940㎡
調査期日 平成 28 年 10 月 11 日～ 12 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.45 山王脇遺跡 (19 - 156)

調査地番 広栄町 21 - 6
調査面積 390㎡
調査期日 平成 28 年 10 月 12 日
調査原因 共同住宅
調査結果 遺構なし



No.46 善仲館跡 (19 - 151)

調査地番 大字古谷上 4174 - 3 ほか
調査面積 89㎡
調査期日 平成 28 年 10 月 13 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.47 新嘗井遺跡 (19 - 25)

調査地番 大字小堤 546 - 35 ほか
調査面積 230㎡
調査期日 平成 28 年 10 月 18 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (縄文 / 弥生・住居跡 / 土坑)
対 応 現状保存



No.48 西若宮遺跡 (19 - 58)

調査地番 大字の場 598 - 29
調査面積 120㎡
調査期日 平成 28 年 10 月 20 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.49 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 94 - 1
調査面積 100㎡
調査期日 平成 28 年 10 月 31 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.50 弁天南遺跡 (19 - 118)

調査地番 仙波町 3 - 5 - 10
調査面積 220㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 8 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)
対 応 盛土保存



No.51 南田島遺跡 (19 - 325)

調査地番 大字南田島 483 - 1 ほか
調査面積 298㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 14 日
調査原因 建売住宅
調査結果 遺構あり (古代・土坑)
対 応 現状保存



No.52 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 288 - 14
調査面積 142㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 16 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古代・溝)
対 応 盛土保存



No.53 弁天南遺跡 (19 - 118)

調査地番 仙波町 3 - 19 - 2
調査面積 780㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 17 日
調査原因 共同住宅
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)
対 応 盛土保存



No.54 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 仙波町 3 - 15 - 9
調査面積 244㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 18 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)
対 応 盛土保存



No.55 南本町遺跡 (19 - 199)

調査地番 大字笠幡 2077 - 6 ほか
調査面積 281㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 21 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.56 新嘗井遺跡 (19 - 25)

調査地番 大字小堤 546 - 2
調査面積 431㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 28 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.57 藤原町遺跡 (19 - 142)

調査地番 諏訪町 7 - 7
調査面積 343㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 28 日
調査原因 分譲住宅
調査結果 遺構なし



No.58 弁天南遺跡 (19 - 118)

調査地番 仙波町 3 - 5 - 1
調査面積 434㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 29 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)
対 応 盛土保存



No.59 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 2 - 1 - 9 ほか
調査面積 392㎡
調査期日 平成 28 年 11 月 29 日
調査原因 幼稚園
調査結果 遺構なし



No.60 堂山遺跡 (19 - 30)

調査地番 大字吉田 70 - 2
調査面積 1,520㎡
調査期日 平成 28 年 12 月 5 日～6 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.61 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 288 - 15
調査面積 132㎡
調査期日 平成 28 年 12 月 8 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古代・溝)
対 応 盛土保存



No.62 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 2 - 16 - 26
調査面積 152㎡
調査期日 平成 28 年 12 月 9 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.63 小仙波四丁目遺跡 (19 - 115)

調査地番 小仙波町 3 - 18 - 11
調査面積 320㎡
調査期日 平成 28 年 12 月 13 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古代・溝)
対 応 盛土保存



No.64 日枝神社遺跡 (19 - 44)

調査地番 大字上戸 274 - 11
調査面積 150㎡
調査期日 平成 28 年 12 月 14 日
調査原因 建売住宅
調査結果 遺構なし



No.65 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 仙波町 3 - 13 - 10
調査面積 180㎡
調査期日 平成 28 年 12 月 22 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



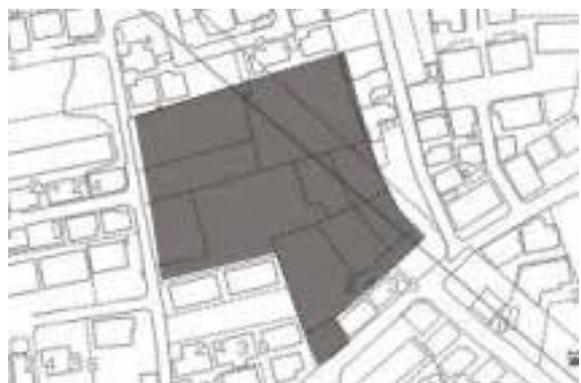
No.66 前畑北遺跡 (19 - 54)

調査地番 大字大袋 221 - 23 ほか
調査面積 320㎡
調査期日 平成 28 年 12 月 27 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.67 豊後山遺跡 (19 - 305)

調査地番 大字的場 2426 ほか
調査面積 4,381㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 10 日 ~ 13 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構あり (古代 / 中世・住居跡)
対 応 豊後山遺跡第 2 次調査・盛土保存



No.68 下宿東遺跡 (19 - 311)

調査地番 大字的場 2464 - 46 ほか
調査面積 110㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 13 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.69 八幡前・若宮遺跡 (19 - 59)

調査地番 大字的場 471 - 7
調査面積 100㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 17 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.70 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 150
調査面積 3,120㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 18 日～ 19 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.71 喜多院境内遺跡 (19 - 110)

調査地番 西小仙波町 1 - 13 - 1
調査面積 188㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 23 日
調査原因 寺院庫裡
調査結果 遺構なし



No.72 走下り西遺跡 (19 - 315)

調査地番 大字的場 2530 - 3
調査面積 100㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 24 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.73 善仲寺館跡 (19 - 151)

調査地番 大字古谷上 4151 の一部
調査面積 401㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 25 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.74 会下遺跡 (19 - 41)

調査地番 大字鯨井 662 - 1
調査面積 200㎡
調査期日 平成 29 年 1 月 27 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.75 南田島遺跡 (19 - 325)

調査地番 大字南田島 1004 - 1
調査面積 446㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 3 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.76 高島遺跡 (19 - 323)

調査地番 大字高島 506 ほか
調査面積 125㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 6 日
調査原因 倉庫建設
調査結果 遺構なし



No.77 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 大手町 11 - 31
調査面積 92㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 7 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.78 藤原町遺跡 (19 - 142)

調査地番 稻荷町 3 - 23
調査面積 322㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 8 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)
対 応 始末書



No.79 五畑東遺跡 (19 - 296)

調査地番 大字的場 794 - 16
調査面積 498㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 9 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



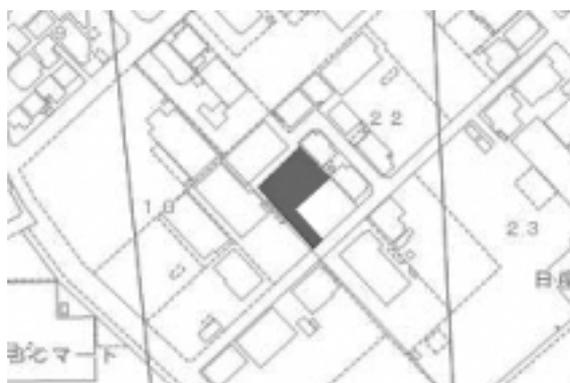
No.80 並木遺跡 (19 - 326)

調査地番 大字並木 887 - 20
調査面積 144㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 10 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.81 山王脇遺跡 (19 - 156)

調査地番 広栄町 22 - 28
調査面積 297㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 21 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.82 宮廻遺跡 (19 - 236)

調査地番 大字下広谷 654 - 9
調査面積 223㎡
調査期日 平成 29 年 2 月 24 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.83 牛塚西遺跡 (19 - 310)

調査地番 大字的場 2464 - 1 ほか
調査面積 1,100㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 3 日
調査原因 貸家住宅
調査結果 遺構あり (縄文・住居)
対 応 盛土保存



No.84 寺尾貝塚 (19 - 24)

調査地番 大字寺尾 72 - 2 ほか
調査面積 1,084㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 9 日
調査原因 集合住宅
調査結果 遺構なし



No.85 弁天西遺跡 (19 - 115)

調査地番 小仙波町 4 - 4 - 5 の一部
調査面積 199㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 13 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)
対 応 盛土保存



No.86 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 2 - 23 - 11 ほか
調査面積 220㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 15 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.87 大塚遺跡 (19 - 323)

調査地番 中台 2 - 10 - 22 ほか
調査面積 207㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 16 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.88 川越城跡 (19 - 323)

調査地番 郭町 2 - 1 - 15
調査面積 50㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 21 日
調査原因 個人物置
調査結果 遺構なし



No.89 天神前遺跡 (19 - 234)

調査地番 大字下広谷 491 - 5
調査面積 354㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 22 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.90 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 200 ほか
調査面積 1,797㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 22 日～ 23 日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.91 新嘗井遺跡 (19 - 336)

調査地番 大字小堤 546 - 3 ほか
調査面積 466㎡
調査期日 平成 29 年 3 月 27 日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.92 喜多院境内遺跡 (19 - 110)

調査地番 西小仙波町 1 - 8 - 10

調査面積 270㎡

調査期日 平成 29 年 3 月 31 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



9-3 教育委員会の発掘調査

(1) 霞ヶ関遺跡(第23次調査)

調査地番 川越市上戸新町 16-5・6・7、
36-8
調査期間 平成28年4月1日～5月18日
(昨年度から継続)
調査面積 250㎡
調査原因 道路建設
通知番号 川教文発第1272号
平成28年3月15日



調査概要

霞ヶ関遺跡の地理・歴史的環境

浅間下遺跡は、川越市西部上戸地区にある。地形的には入間川左岸の標高22m前後の低台地上に位置する。近年、本遺跡は古代入間郡家の有力候補地として注目されている。また、本遺跡の北方約500mには中世武士河越氏の館跡である国指定史跡河越館跡が存在する。

第23次調査の概要

今回の調査では、弥生時代後期の方形周溝墓2基、古墳時代前期の住居跡1軒、奈良・平安時代の住居跡3軒、柱穴群が検出された。調査区西側は大型掘立柱建物跡が発見された第7～9次調査区に接し、この辺りに柱穴が集中する。「入厨」の墨書をもつ須恵器・坏もここから出土している。

まとめ

今回の発掘調査は狭い面積の調査ではあったが、複合遺跡としての霞ヶ関遺跡の時代相の厚みを再確認するとともに、古代入間郡の中核である入間郡家の蓋然性を更に高めるなど多くの成果を得ることができた。

※写真・図面等の詳細な調査概要は平成27年度年報に掲載した。

(2) 喜多院境内遺跡（第4次調査）

―市指定史跡松平大和守家廟所保存整備に伴う発掘調査―

調査地番 川越市小仙波町1-20-8（喜多院境内）
調査期間 平成28年10月11日～21日、平成29年3月10日～16日
調査面積 18㎡
調査原因 史跡保存整備
通知番号 川教文発第591号 平成28年9月12日

調査の概要

市指定史跡松平大和守家廟所は経年劣化等による損朽のため、平成26年度から5箇年の計画で保存整備事業を実施している。平成28年度に馨徳院廟（7代直温）、興国院廟（8代齐典）、建中院廟（10代直侯）の解体工事を行ったことから、この機に基壇内部の構造や廟所造営の過程等を明らかにするための発掘調査を実施した。

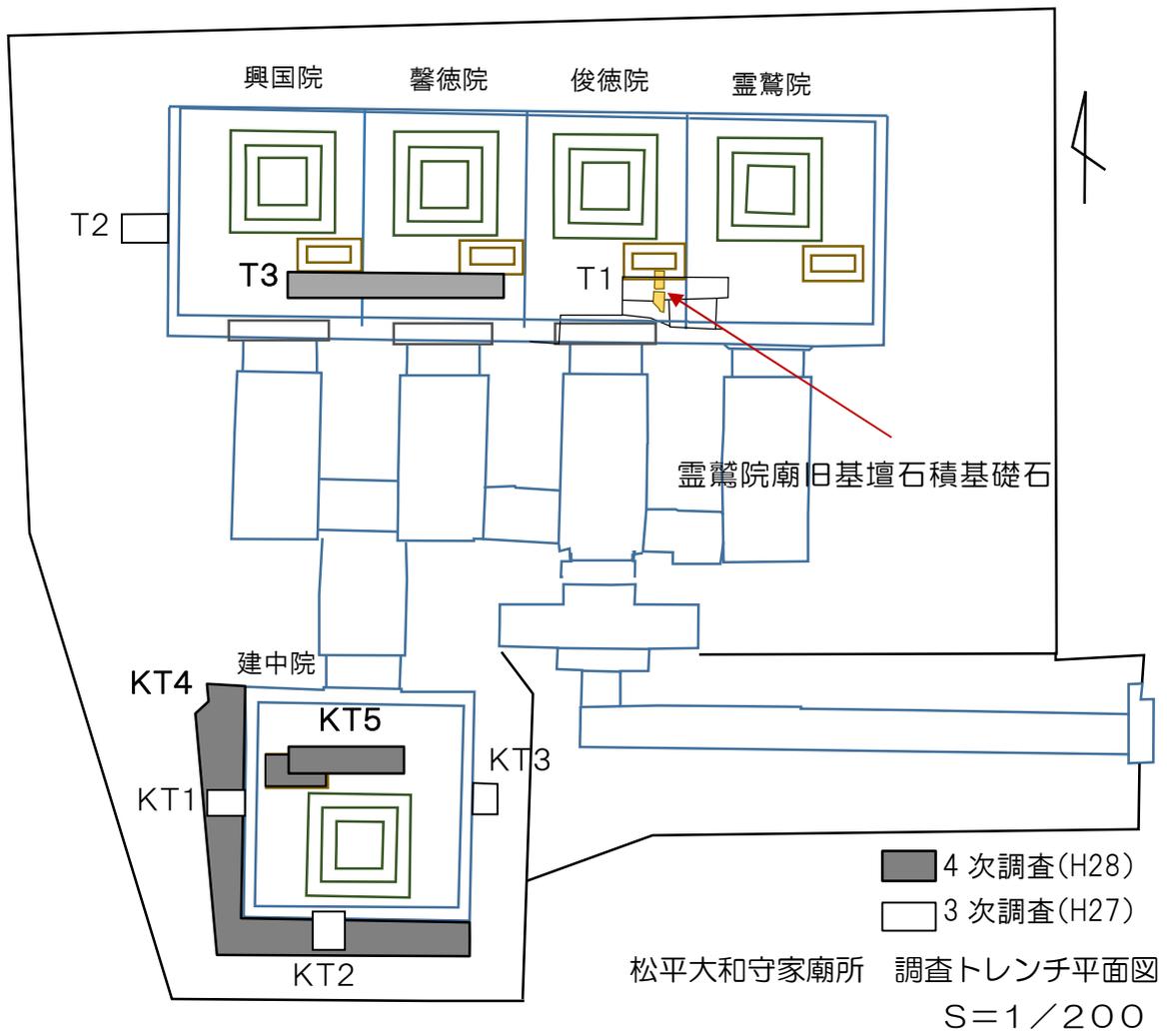
調査は、石塔解体後、馨徳院廟から興国院廟の基壇上に長さ約6mのトレンチ（T3）を設定し、基壇の断ち割りを行った。また、南側に1基独立する建中院廟（10代直侯）の周囲にトレンチ（KT4）を、同廟の基壇上に長さ約3mのトレンチ（KT5）を設定した。KT4は、平成27年度に検出された周囲の瓦敷と背面の石列の全容を確かめるために設定したものである。

調査の結果、T3では、土層断面の状況から先代の隣に増築する形で7代・8代の廟所を造成していることが確かめられた。また、8代の造成土上層は、灰色のシルト質土を使用しており、他の廟とは異なることが明らかになった。

KT4では、10代廟西側の瓦敷と背面を画する石列の全体が検出された。瓦敷は、主に平らな扉用の軒平瓦（江戸期）を転用したことは明らかなのものの、敷設の時期や用途・機能については調査では判然としなかった。石列は、厚さ約10cm前後の薄い石を地中に立て並べたものである。用途・機能については判然としないが、調査の結果、廟所造営時に設けられたものであること、また廟所周囲の傾斜は、土塁の痕跡と考えられることから、土留め用の可能性がある。よって、10代廟は、土塁を一部改変して用地を確保し造営されたものと推定される。

KT5では、神道碑の下から他の廟では見られない切石を配置した基礎が検出された。この基礎は、土層観察から、神道碑が建つ（慶応2年10月）以前の廟所造営時に据えられたと考えられる。また、基壇造成土については、造営時期が近く、基礎地業が共通する8代廟とは異なり、黄褐色ロームを主体とする土であった。土塁の土を活用した可能性も想定される。

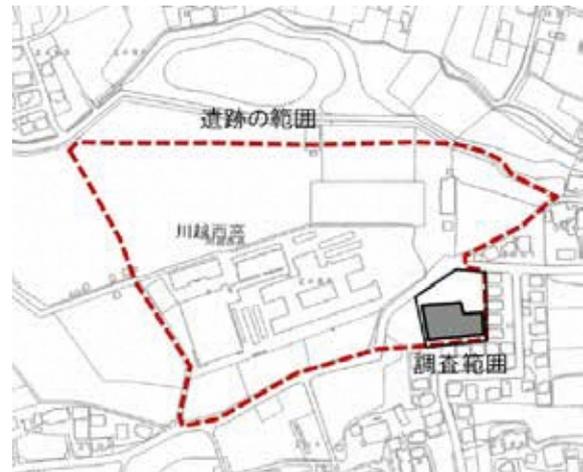
この他、石塔下の調査では、基台（石塔の基礎部分）内部から石組がそれぞれ検出された。7代・8代は長方形の切石を段毎に方向を変えての3段積みとし、10代は、他と異なり、同方向に2段積みの構造であった。同廟では、石組周囲にも長方形の切石が据えられていた。



トレンチ3 (T3) 興国院廟の基壇土層 (南から)

(3) 登野山遺跡（第2次調査）

調査地番 川越市大字笠幡 3001 - 12・13
調査期間 平成28年10月31日～
平成29年1月31日
調査面積 925㎡
調査原因 公共施設（公民館）建設
通知番号 川教文発第683号
平成28年10月12日



調査の概要

本遺跡は、川越市の西部、小畔川左岸の台地上（標高約45m）に立地する。この小畔川左岸台地上には、本遺跡を含め、古代（奈良・平安時代）の遺跡が分布しており、該期に複数の集落が営まれていたものと考えられる。

平成25年7月に遺跡の隣接地であった当地における試掘調査で、古代の竪穴住居跡7軒他が検出されたため、遺跡の範囲が南側に広がることが明らかとなった。

調査結果を受けて、平成27年9月に遺跡範囲増補の手続きを行った上で、予定建築物の建設により、埋蔵文化財の保存ができない範囲について記録保存のための発掘調査を実施することとした。

調査の結果、竪穴住居跡8軒（内1軒は重複）、掘立柱建物跡2棟が検出され、土師器甕・須恵器坏・小壺等の遺物が遺構に伴い出土した。竪穴住居跡は、やや間隔を空けて分布しており、住居跡の重複はほとんどみられない。また、住居跡のカマドの設置場所は、ほとんどが東側の壁に設置されており、多くが同一あるいは近似する時期に営まれたものと推測される。

このことから集落跡は、長期間にわたり継続することはなかったものと考えられる。遺跡の営まれた時期は、出土遺物から、奈良時代の8世紀後半を中心とし、一部平安時代初めの9世紀代におよぶものと推定される。

古代の遺構・遺物の他に、住居跡の覆土から、縄文時代草創期以前の石器（尖頭器他）2点が出土している。



調査区全景（南西から）



2号住居跡完掘状況（西から）



4号住居跡完掘状況（南から）



2号住居跡遺物（須恵器坏・小壺）出土状況（北西から）



7号住居跡完掘状況（西から）



1・2号掘立柱建物跡完掘状況（東から）

(4) 山王塚古墳 (第3次調査)

調査地番 川越市大塚1丁目・豊田町3丁目
調査期間 平成28年7月11日～10月5日
調査面積 90㎡
調査原因 史跡内容確認
通知番号 川教文発第337号



位置図 (1 : 2500)

山王塚古墳の概要

市指定史跡山王塚古墳は市内大東地区、入間川右岸の台地上にある上円下方墳である。上円下方墳は古墳時代終末の7世紀後半から8世紀初めに築造された首長墓で、発掘調査で墳形が確認されたものは全国でも6例しかない。山王塚古墳は下方部一辺63m、上円部径47m、高さ5mでこれらの中でも最大の規模を誇る。

発掘調査の経緯

川越市教育委員会では、平成24年度より山王塚古墳の史跡内容確認のための発掘調査を実施している。平成24年度の墳形確認調査、平成27年度の周溝確認調査に続く本年度の第3次調査では周溝補足調査、埋葬施設確認調査のため、山王塚古墳に5本のトレンチ(試掘坑)を入れた。

第3次調査の成果

下方部南側に設けた9・10・13号トレンチでは、下方部を巡る上幅約15m、深さ約50cmの周溝が検出された。周溝は南側で途切れ、ロームを掘り残したブリッジ(陸橋)部となる。また、周溝から下方部下にかけて墳丘構築土であるロームを採掘したと思われる土坑が確認された。

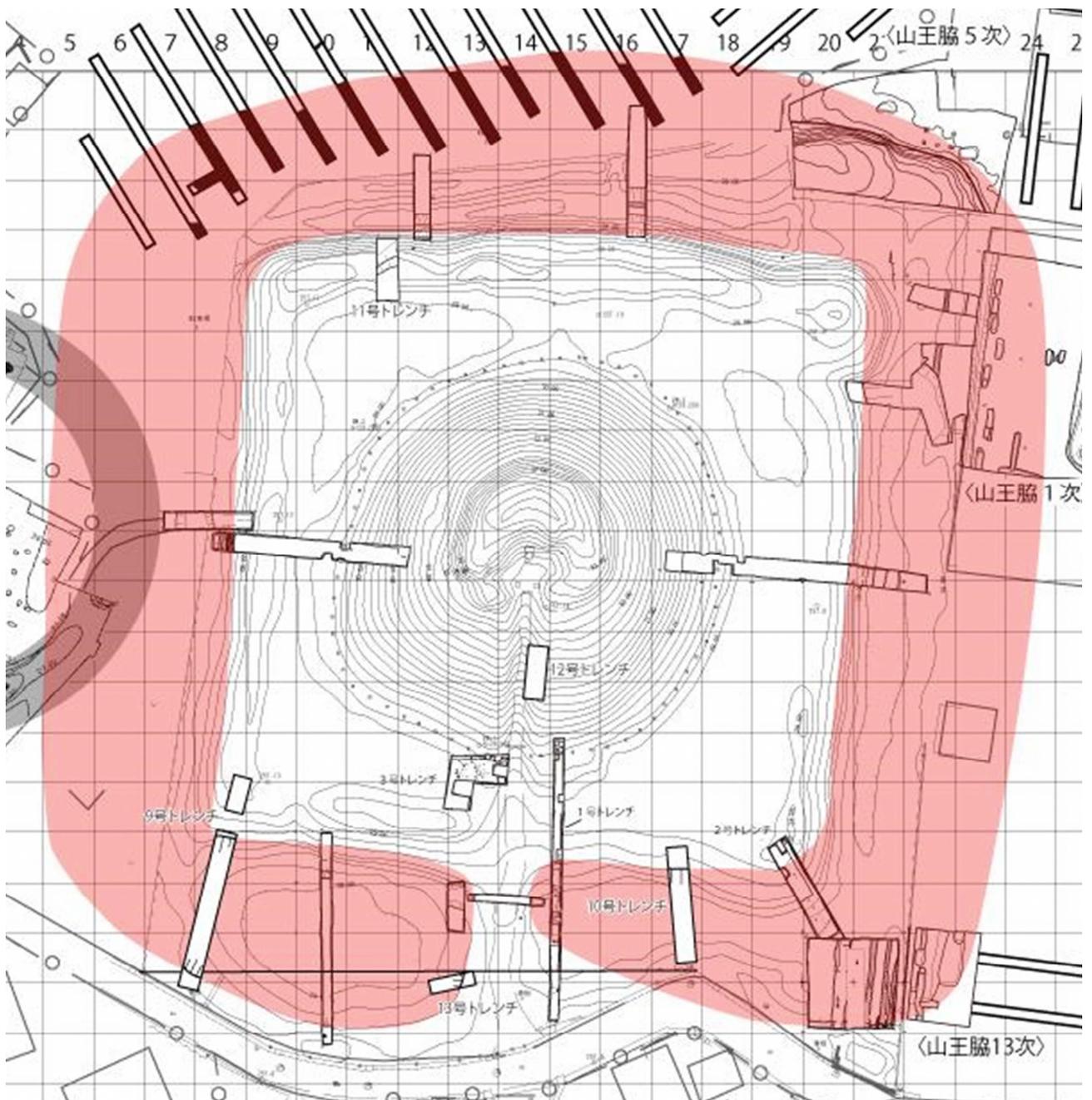
下方部北側の11号トレンチでは下方部外縁を巡る土手状の盛土が良好な状態で確認されるとともに、墳丘下に先行する時期の古墳が存在することが明らかとなった。墳丘下の古墳の周溝をロームブロックで丁寧に埋め、その上に山王塚古墳の下方部が築かれていた。

上円部南側の12号トレンチでは横穴式石室前の石敷きの前庭部が検出された。石室入口の羨門の立石は抜かれ、前庭部の側壁も大きく崩されているものと想定されるが、石敷きからは供献された須恵器・平瓶や棺に使われたと思われる鉄釘が出土している。このうち須恵器・平瓶は7世紀後半の猿投窯の製品と考えられる。

まとめ

これまでの発掘調査で、山王塚古墳は一辺90mを越える広大な領域を有し、規模を大きく見せるため周囲に幅広の周溝を巡らし、下方部の外縁に土手状の盛土を築いていることが判明した。

また、横穴式石室の前庭部は大きく破壊されているものの出土した須恵器・平瓶の年代観から7世紀後半の築造年代が推定される。



トレンチ配置図… (1 : 600)



山王塚古墳全景（西南より）



9-A号トレンチ（サブトレンチ内が周溝の底面）



9-B号トレンチ（白線の左側が下方部縁の盛土）



9-B号トレンチ（盛土下のローム採掘坑）



10号トレンチ（南側道路より周溝を望む）



10号トレンチ（下方部より周溝を望む）



13号トレンチ（白線より奥がブリッジ部）



13号トレンチ（全景）



13号トレンチ（土層）



11号トレンチ (手前は先行する古墳の周溝)



11号トレンチ (白線の左側が下方部外縁の盛土)



11号トレンチ(先行する古墳周溝の埋め戻し状況)



12号トレンチ(山王祠参道・鳥居との位置関係)



12号トレンチ (右手奥が石柱抜き取りによる攪乱)



12号トレンチ (石柱抜き取り時の攪乱)



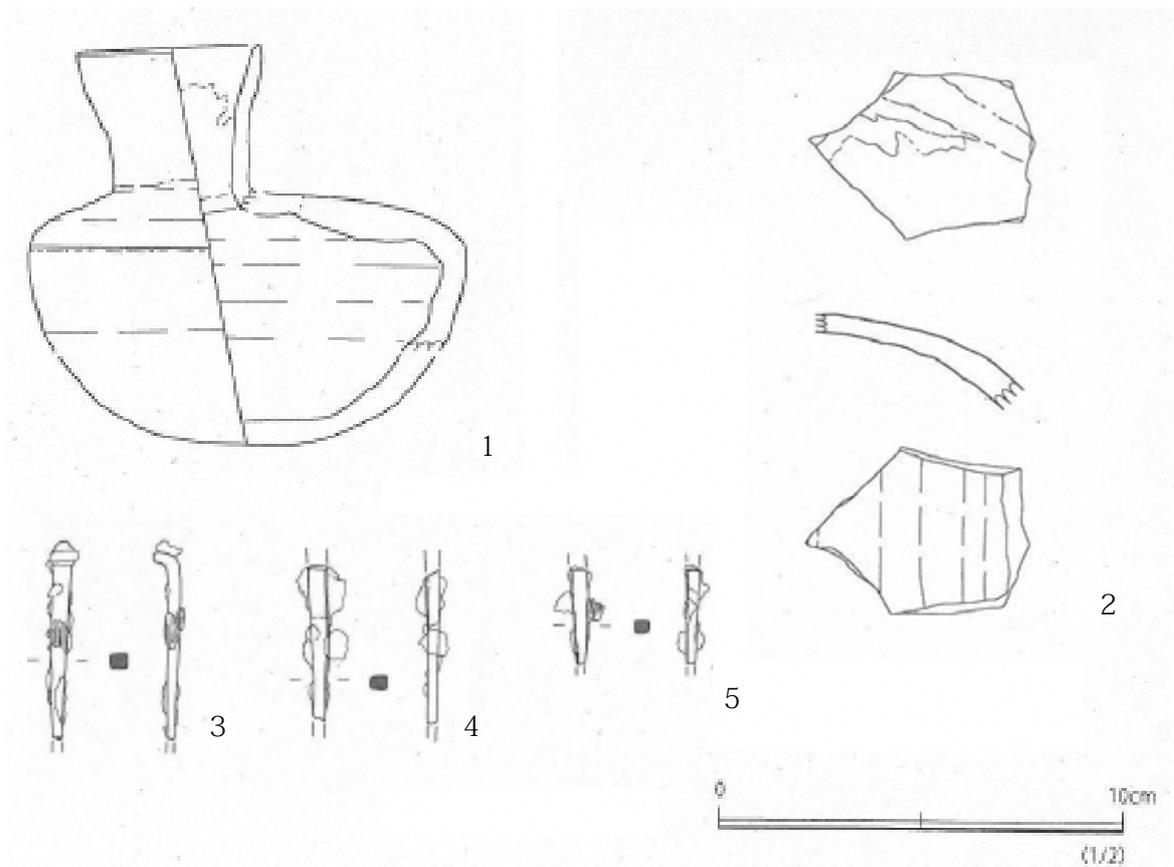
12号トレンチ (前庭部石敷き下の状況)



12号トレンチ (鉄釘出土状態)



12号トレンチ (須恵器平瓶出土状態)



12号トレンチ出土遺物実測図 (1 : 2) 1 須恵器平瓶 2 須恵器長頸瓶 3~5 鉄釘

(5) 豊後山遺跡 (第2次調査)

調査地番 川越市大字的場字豊後山 2426、
2427 - 1・3、2428 - 1・3、
2436 - 23、2437 - 1・2、2438
- 1、霞ヶ関東1 - 21 - 10・11
調査期間 平成 29 年 2 月 10 日～6 月 9 日
調査面積 1,029m²
調査原因 道路建設
通知番号 川教文発第 1082 号
平成 29 年 2 月 2 日



遺跡概要

豊後山遺跡は入間台地の南東側の、入間川と小畔川に挟まれた南西から北東へ伸びる支台（飯能台地）に立地する。南東に入間川を見下ろす台地縁辺より 300m 程度内陸側に位置する。周囲には南紫野遺跡、走下り西遺跡、東下川原遺跡、霞ヶ関遺跡等が確認されており、古墳時代から平安時代頃の集落が検出されている。なお、隣接する豊後山遺跡第 1 次調査地点では 8 世紀後半の住居跡が検出されている。

主な検出遺構

- | | | |
|-------------|-------|------|
| • 奈良時代～平安時代 | 住居跡 | 16 軒 |
| • 中世 | 地下式坑 | 17 基 |
| | 土坑 | 複数 |
| • 時期不明 | 土坑、溝跡 | 複数 |

古代の住居跡は 8 世紀中頃から 10 世紀代にかけてのものであり、調査区北半分で広く検出された。多数の須恵器、土師器が出土した。カマドは北向き（10 軒）と、西向き（6 軒）とが確認できたが、出土遺物の年代からは西向きの住居跡が新しい傾向があるようである。2 号住居跡はカマドの袖が比較的良好な状態で検出された。5 号住居跡は後世の掘削により一部が破壊されていたものの、大量の炭化材が伴う焼失住居であり、原位置に近い状況で多くの遺物が出土した。「入厨」等の墨書土器も複数含まれる。

地下式坑は調査区全域で検出された。後世の流れ込みと考えられる遺物を除くと、竪坑（入口）部分で出土したカワラケ数点の他に出土遺物は皆無であり、遺構の用途に関する物証は得られなかった。土層断面の観察からは、天井の崩落前のある程度埋め戻されたものや、天井崩落後に丁寧に埋め戻されたものなど、幾通りかの埋没過程が想定される。これほど地下式坑が集中する遺跡は周囲では知られておらず、貴重な発見である。

12 号土坑からは底面から銅製の鍋が出土した。13 号土坑では底面から土器がまとまって出土した。また調査区南側では、遺物が伴わないものの、長さ 400cm 弱×幅 60～70cm×深さ 50～80cm 程度の土坑が並列して 4 基検出された。土層観察からは比較的短期間に埋め戻されたものと推測される。これらはいずれも土壌墓の可能性が指摘できる。



2号住居跡完掘状況



2号住居跡カマド



5号住居跡遺物出土状況



5号住居跡墨書土器



2号地下式坑



13号土坑遺物出土状況



12号土坑遺物出土状況



12号出土銅製鍋

10 伝統的建造物群保存地区保存整備事業

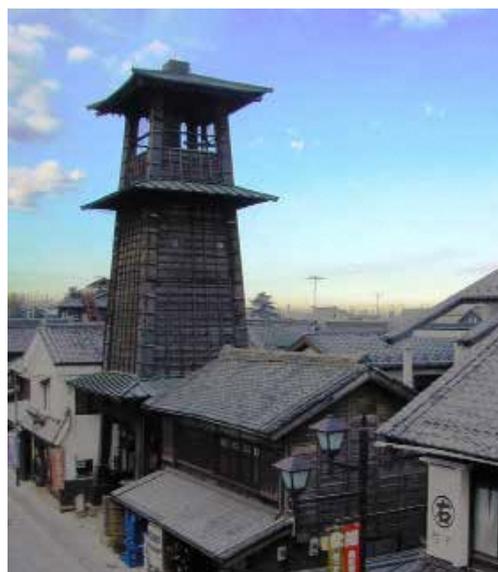
蔵造りと時の鐘に代表される町並みは川越のシンボルゾーンであり、かけがえのない文化遺産である。蔵造り町家以外にも各時代を代表する多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

10－1 伝統的建造物群保存地区制度

「伝統的建造物群保存地区制度」とは、失われゆく歴史的な町並みを大切に後世に伝えていくための文化財制度で、昭和50年の文化財保護法の改正により創設されたものである。

「伝統的建造物群」とは、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値が高いものをいい、またこれと一体をなして価値を形成している環境を保存するための地区を「伝統的建造物群保存地区」という。

伝統的建造物群保存地区で我が国にとって価値が特に高いものは、「重要伝統的建造物群保存地区」として文部科学大臣に選定される。



10－2 地区概要

1. 種 別 重要伝統的建造物群保存地区
2. 名 称 川越市川越伝統的建造物群保存地区
3. 所 在 地 埼玉県川越市幸町の全部、元町1丁目、元町2丁目及び仲町の各一部
4. 面 積 約7.8ha
5. 条例制定年月日 平成10年6月23日（条例第19号）
6. 都市計画決定年月日 平成11年4月9日
7. 保存計画決定年月日 平成11年4月9日
8. 選 定 年 月 日 平成11年12月1日
(文部省告示第197号)
9. 選 定 理 由 重要伝統的建造物群保存地区選定基準「(1) 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」による。



■川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

10－3 地区の特性

川越の伝統的な町並みは、間口が狭く奥行きが長い敷地割のため、表は軒を連ねながらも奥には中庭を取り、採光や通風に対する工夫がみられるなど、商業地としての賑わいの演出と快適な住環境を両立させる知恵が活かされている。伝統的建造物群の基調をなす「蔵造り町家」は、明治26年の大火を契機として生まれたものである。まちの復興にあたり川越商人は、舟運により交流のあった江戸に多く建てられていた防火建築の土蔵造りを採用したと言われている。

町並みを構成する建造物としては、蔵造り町家群が最も特徴的であるが、真壁造り町家、大正昭和初期の洋風町家も分布する。また、町家以外の伝統的建造物には和風住宅、洋風住宅、並びに埼玉りそな銀行川越支店（旧第八十五銀行本店本館）等の近代洋風建築、寺社、時の鐘等の多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

10－4 平成28年度の主な事業の概要

(1) 保存事業

伝統的建造物の修理3件、応急修理4件、景観事業2件、合計9件の保存事業に補助金を交付した。

(2) 保存対策関連調査等

福田家住宅主屋実測調査を実施した。

(3) 保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に補助金を交付した。

(4) 防災計画策定検討業務委託

平成27年度事業での検討を踏まえ、あらたな防災計画の策定を行った。

10－5 現状変更行為件数

建築物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	2	2	0	0	4	10	5	0	0	23
工作物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	1	1	0	0	2	0	1	0	0	5
土地の形質の変更										0
木竹の伐採										3
土石の類の採取										0
その他（看板設置・修繕等）										12
合 計										43

(一つの申請で複数の行為内容を申請している場合があるため、許可件数としては37件。)

10－6 保存事業

(1) 保存事業補助金交付額

伝統的建造物の修理3件、応急修理4件、景観事業2件、合計9件の保存事業に、補助金合計37,336,000円を交付した。

(2) 保存事業の内容

事業種別	対象物件		事業内容
修 理	①	一萬田家住宅主屋	屋根下地の修繕、瓦と板金の葺き替え、外壁の貼り替え、基礎の補修等
	②	粟生田家住宅主屋	屋根の葺き替え及び外壁の復原、構造補強等
	③	細田家住宅主屋	瓦の葺き替え、小屋組及び屋根下地の修理等
応急修理	⑤	山吉主屋	ショウウィンドウ枠の経年劣化した部分を除去し、修復材にて修理
	⑥	薬師神社拜殿	経年劣化によりずれた屋根瓦の修理
	⑦	亀屋店蔵	経年劣化により剥離した店蔵のけらば部分の漆喰及び下地を除去し補修
	⑧	平岩・水飼両家住宅主屋	落下の恐れのある風切瓦の修理
景 観	⑪	勝冶家住宅	町並みに調和した専用住宅の新築及び外構の整備
	⑫	松ヶ角家住宅主屋看板	洋風町家に調和したアイアン看板の設置

修理事業

①一萬田家住宅主屋



修 理 前



修 理 後

②粟生田家住宅主屋



修 理 前



修 理 後

③細田家住宅主屋



修 理 前



修 理 後

景観事業

⑧勝冶家住宅



⑨松ヶ角家住宅主屋看板



10－7 保存活動事業

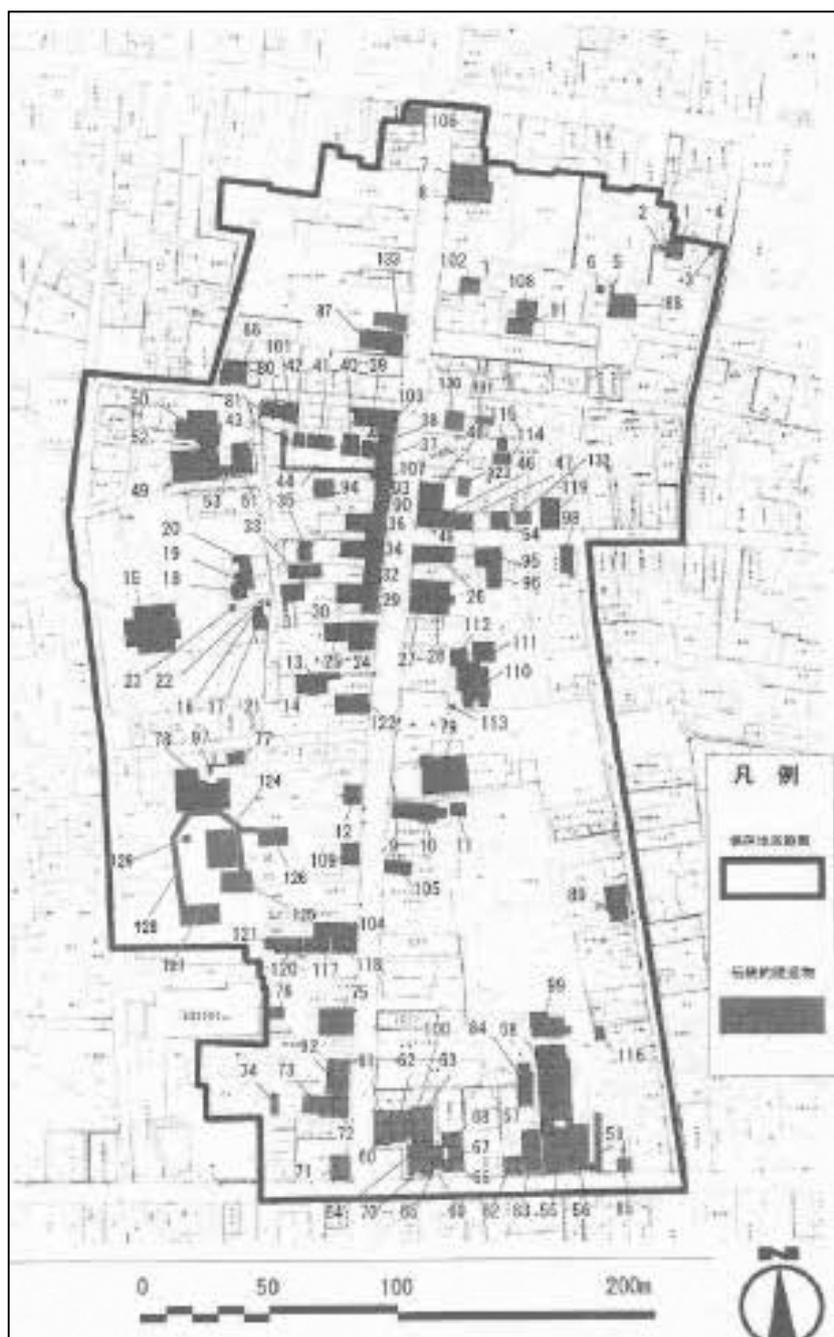
川越町並み委員会が行う伝建地区の保存活動事業に対して、150,000 円の補助金を交付した。

10－8 伝統的建造物の特定状況

平成 28 年度の追加特定はなし。

伝統的建造物の分布

(平成 28 年 3 月 23 日変更告示による)



10－9 時の鐘耐震化事業

(1) 時の鐘耐震化事業

現在の時の鐘は、明治26年の川越大火の翌年に再建されたものである。これまでに保存のための修理としては、屋根の葺替え、塗装、暫定的な構造補強は行われたが、耐震診断調査に基づいた耐震対策は行われていなかった。

このため、文化庁の「文化財建造物等を活用した地域活性化事業」を活用して、平成25年度に耐震診断を実施したところ、大地震時に引き抜き力が発生し浮き上がる危険性が指摘され、また、各所に雨漏りを原因とした腐朽箇所が散見され、危険な部位もあった。このため、平成26年度に実施設計を行い、平成27・28年度の2箇年で耐震化工事を実施した。



完成後

(2) 平成28年度 耐震化工事の実施

平成27・28年度の2箇年継続事業で耐震補強工事と明治の再建当初への復原を行う保存修理工事を実施した。耐震補強工事としては、地震時の浮き上がりを抑えるための耐圧盤の打設、柱・梁・筋違等の接合部の補強等、保存修理工事としては、礎石建ち復原、主柱の根継ぎ、下見板・屋根銅板葺き交換等を行う。

平成27年度に基礎部分の工事を行ったのに引き続き、平成28年度は建物修復工事を実施した。4～5月に素屋根設置、6月に木部半解体及び調査、7～8月に木部補修及び構造補強金物設置、8月下旬から9月には下見板取り付けや屋根板金工事等、10月以降は素屋根の解体、外構工事、設備復旧工事を行い、平成29年1月13日に完了した。

平成28年度の工事内容

建物修復工事 素屋根設置、木部解体・補修、板金工事
設備復旧、外構工事



素屋根設置



養生シート・デザインシート



半解体実施



主柱（4階北東）補修（埋木）



4階北側差し・追っかけ継ぎ



床梁交換（マツ材）



主柱・梁・筋違接合部の引きボルト



大屋根の補修



銅板葺き、露盤（高さ復原）、避雷針復旧



下見板・簷子及び主柱覆い板取付



素屋根解体後、主柱根継ぎ部分の補強金輪取付



縁石・参道敷石復旧



主柱の銅板根巻き

10 - 10 蔵造り資料館耐震化事業

蔵造り資料館は、明治26年（1893）の川越大火の直後に煙草商小山文蔵氏により再建された店蔵を中心に、店蔵に隣接し土蔵造りの添屋、背後に木造の住居棟のほか3棟の土蔵、外便所等により構成されている。

これまでに、住居棟の半解体修理、二番蔵の構造補強をはじめ、外壁の修繕等が行われているが、経年による外壁等の劣化、雨水の流入による軸部の腐蝕、建物の不同沈下が進行している。

そのため、伝統的建造物の維持管理、また公開活用に資する建造物等の安全性の観点から、文化庁の「文化財建造物等を活用した地域活性化事業」を活用し、耐震化事業を実施中である。

平成28年度 耐震化工事の発注準備

平成26年度の耐震診断調査を基に、平成27年度に耐震化工事実施設計を行い、平成28年度は工事発注の準備を進めた。



蔵造り資料館外観



住居棟



一番蔵



二番蔵



三番蔵

11 普及・啓発事業

11-1 職員の派遣

平成28年度は16件の依頼を受けて職員を派遣した。

	実施日	講義内容	講義場所	依頼元	対象	派遣職員
1	5月7日	蔵の歴史について	高階南公民館	ヒューマンライフ	63名	天ヶ嶋
2	6月11日	高階の歴史について	高階公民館	青少年を育てる 高階地区会議	100名	天ヶ嶋
3	7月29日	川越唐棧について	県立歴史と民俗 の博物館	埼玉県文化財保 護協会	150名	石田
4	9月8日	川越の蔵造りについて	高階公民館	高階公民館	140名	天ヶ嶋
5	9月29日	鉄道の発展と川越につ いて	南公民館	南公民館	90名	天ヶ嶋
6	10月1日	川越まつりについて	南公民館	川越学舎	60名	田中
7	10月25日	名細地区の発掘調査につ いて	名細出土品整理 室	名細公民館	20名	藤田
8	11月5日	山王塚古墳と霞ヶ関遺 跡について	住友あおい集會 所	住友あおい自治 会	60名	岡田
9	12月6日	川越城について	三久保自治会 ほか	博物館	100名	天ヶ嶋
10	12月15日	発掘現場について	登野山遺跡 第2次調査現場	霞ヶ関公民館	27名	山田
11	1月28日	松平大和守家廟所修復 事業見学会	喜多院	文化財保護協会	60名	山田
12	2月1日	東山道武蔵路と川越	ウエスタ川越	彩の国生きがい 大学川越学園	30名	天ヶ嶋
13	2月2日	流鏝馬について	上戸小学校	上戸小学校	60名	田中・岡田・ 門脇
14	2月10日	蔵造り町並み見学案内	市内	広聴課	20名	天ヶ嶋
15	2月18日	松平大和守家廟所修復 事業見学会	喜多院	喜多院	70名	山田
16	3月15日	日本の中の川越まつり について	南古谷公民館	高階南公民館	20名	石田

11 - 2 刊行物

「川越の歴史年表」をはじめとしたパンフレット及び書籍を発行し、文化財の保護普及の一助としている。

パンフレット

川越建物細見
川越市指定文化財 時の鐘
市指定文化財 旧山崎家別邸
川越の祭りと芸能
国指定史跡 河越館跡
国指定史跡河越館跡史跡公園
川越城中ノ門堀跡
市指定文化財永島家住宅（旧武家屋敷）



書籍・地図

川越市の文化財	川越氷川祭りの山車行事報告書
ハンドブック川越の歴史	川越の民俗調査報告書第一集 福原・南古谷地区の民俗
川越の伝説	川越の民俗調査報告書第二集 山田地区の民俗
続・川越の伝説	川越の神社建築
川越の人物誌 第1集	川越の寺院建築
川越の人物誌 第2集	川越市指定文化財 旧山崎家別邸調査報告書
川越の人物誌 第3集【女性編】	元町二丁目井上家文書目録
川越市文化財散策マップ	川越市山田地区民具調査報告書 鹿倉家の民具

11－3 防火訓練

1. 日 時 平成 29 年 1 月 26 日（木）午後 1 時 30 分～午後 2 時 35 分
2. 会 場 喜多院・東照宮・日枝神社
3. 主 催 川越市教育委員会・川越地区消防組合
喜多院・東照宮・日枝神社
川越市文化財保護協会
4. 内 容 通報、消火、重要物件搬出、避難などの総合訓練
貯水槽、消火器などの点検・整備及び試験運用
5. 動 員 数 参加人員 115 名
出動車両 10 台（梯子車 2 台、化学車 1 台ほか）
見学者約 200 名
6. 概 要

昭和 24 年 1 月 26 日に法隆寺金堂壁画が火災によって焼損したことから、昭和 30 年に 1 月 26 日が「文化財防火デー」と定められ、消防庁と共同で貴重な文化財を火災から守るための取り組みを行っている。

本市では、昭和 34 年に喜多院客殿・書院に防災設備が設置されたのを契機に文化財防火訓練が開始され、毎年同時期に開催している。喜多院周辺は、重要文化財建造物 3 件 13 棟を始め、川越市内でも最も多くの文化財が集中している地域である。また、各文化財の防火設備等も整備されており、防火訓練を行なうには最適といえる。

平成 28 年度の訓練では、消防署、消防団及び喜多院、東照宮、日枝神社の自衛消防隊により、多くの見学者が見守る中で熱心に訓練が行われた。



喜多院 重要物件の搬出



喜多院 はしご車による放水



東照宮



日枝神社

11 - 4 遺跡発表会 2016

1. 日 時 平成 28 年 6 月 18 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
2. 会 場 市立博物館 視聴覚ホール
3. 対 象 一般
4. 参加人数 60 人
5. 発表遺跡 ①霞ヶ関遺跡 (第 23 次調査) 岡田 賢治
②山王塚古墳 (第 2 次調査) 平野 寛之
③喜多院境内遺跡 (第 3 次調査) 山田 雄正
6. 概 要

毎年川越市で実施している発掘調査の成果について、いち早く市民に公開することを目的とする活用事業である。今回は平成 27 年度に実施した発掘調査の内の上記 3 遺跡の発掘調査成果について、パワーポイントを用いて各調査担当者が報告を行った。また、霞ヶ関遺跡、喜多院境内遺跡の出土遺物を視聴覚ホール外のロビーに展示し、解説を行った。



展示物



会場の様子



説明



展示物解説

11 - 5 山王塚古墳発掘調査見学会

1. 日 時 平成 28 年 8 月 27 日 (土) 10 時～ 11 時・14 時～ 15 時
2. 会 場 市指定史跡山王塚古墳 川越市大塚 1 丁目 21 他
3. 対 象 一般
4. 参加人数 120 人 (午前 77 人・午後 43 人)
5. 概 要

山王塚古墳の発掘の成果を広く市民に周知するため、見学会を行った。最初に時代背景、南大塚古墳群、上円下方墳、発掘調査の概要について説明を行った。当日はあいにくの悪天候であったため、全体説明は行わず、来場者を順次、各トレンチを案内し、説明を行った。

12 川越市の文化財数

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

国指定等文化財			県指定文化財			市指定文化財		
種別		件数	種別		件数	種別		件数
重要文化財	建造物	4	有形文化財	建造物	9	有形文化財	建造物	52
	絵画	2		絵画	2		絵画	1
	工芸品	3		彫刻	2		彫刻	12
	書跡・典籍・古文書	1		工芸品	3		工芸品	20
	無形民俗文化財	1		書跡・典籍・古文書	7		書跡・典籍・古文書	28
記念物	史跡	1	民俗文化財	考古資料	1	民俗文化財	考古資料	7
指定文化財 計		12		歴史資料	1		歴史資料	6
				有形民俗文化財	1		有形民俗文化財	20
重要伝統的建造物群保存地区		1		無形民俗文化財	6		無形民俗文化財	11
重要美術品		2	記念物	史跡	3	記念物	史跡	32
登録有形文化財		12		天然記念物	1		天然記念物	8
登録記念物		1		旧跡	4			
計		28	計		40	計		197
総			計			265 件		

※平成 28 年度中の新指定文化財はなし。重要文化財（工芸品）が他都道府県に移動したことにより、1 件減少した。

川越市文化財保護年報

平成 28 年度

平成 29 年 10 月 1 日

発 行 川越市教育委員会文化財保護課
〒 350 - 8601
川越市元町 1 丁目 3 番地 1
TEL 049 - 224 - 6097 (直通)

印 刷 有限会社 川田写植



文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗^と拱^{きょう}(組みもの)のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。